

あそび

第 3 号

平成 13 年 5 月

都 高 等 学 校 性 教 育 研 究 会

目 次

は じ め に	会 長 小泉 功	-----	1
活 動 報 告	月例研修会	事務局長 川端 洋介	
	役員会・理事会	事務局 井谷 亨	----- 2
総会記念講演	「親と子」	講 師 会津 一	----- 3
公 開 授 業	「薬物乱用防止教育」	授業者 原田 幸男	----- 4
	「コンドームネゴシエイト」	授業者 榎 茂喜	----- 7
中・高合同研修会	「新学習指導要領において、 性教育は、どのように展開できるか」		----- 17
都性研研修会等	第21回宿泊研修会報告	-----	20
	第21回研究大会報告	-----	21
	都性研 一泊研修会報告	-----	22
第30回全国研究大会報告	-----		23
第10回関東甲信越静岡研究大会報告	提案者 榎 茂喜	-----	25
投 稿 論 文	「保護者と連携した性教育について」		
	投稿者 永井 大樹	-----	38
	「私の性教育－東京から北九州へ」		
	投稿者 宮原 万亀	-----	42
出前性教育講座報告「エイズから学ぶ人間の性」	小泉 功	-----	46
組 織	会 則	-----	48
	役員名簿・会員校名簿	-----	49
あ と が き	副会長 筒井 邦雄	-----	50

はじめに

東京都高等学校性教育研究会長

小 泉 功

新学習指導要領の最初の部分には、「生きる力の育成を目指して各学校の教育課程を編成する」と述べられている。このことは、各学校のあらゆる教育活動が、今後、子どもに「生きる力」を育てることを目標として行わなければならない、ということである。それはまた、各学校の教育の成否は、一人一人の子どもに本当に「生きる力」が育成されたかどうか、という点からも評価（判断）される、という意味がある。

その上で、教育課程審議会の答申をふまえ、新教育課程の実施に当たっては、ますます教員のひたむきな努力と力量形成が求められていることは確かである。

「生きる力」とは、大きく言えば習慣化されたもの、身に付いたものである。

人間の性についても、この習慣化された一人一人の生きる力によって営まれ、培っていくものであると信じる。

それでは、「生きる力」をどのように育てていくかというと、東京都における昨今の教育改革の激動の中にあつては、学校現場における実践研究報告はなかなかでてこないが、今後に大いに期待しているところである。

◎学校関係者を震撼させた、ギレル、むかつくという少年達による校内暴力、反社会的犯罪、性非行などの問題行動に見られる心の問題は、様々な要因が複雑に絡まっている。その中であつて思考し、正しく判断する意欲や意志の弱さ、短絡的思考や衝動的行動が見られ、知識を活用して論理的に予測する力の弱さ、思考論理の飛躍が著明である。

また、自分や他人の言い分を客観的に・論理的に思考し判断する力の弱さ、自分の欲求や感情を統御し不条理な行動を抑制する意志の弱さは、物事に対する感受性に乏しく、好

奇心や知ること、成就することなどの喜びの体験に乏しいことなどが原因にあげられる。

このような、心の衰退は、知の衰退、知の崩壊とも関係しているだけに、学校教育において知の訓練を徹底することを再認識する必要がある。

その上で、「生きる力」を育成を目指した学習指導は、今の学校教育では、教員に大変な努力と力量向上が求められていると言える。

教育課程の改訂に伴って、「総合的な学習の時間」が、各学校に示され、平成15年度には、高等学校において実施される。

そこで、性教育がまだまだ脆弱な教育現場では、「総合的な学習の時間」に性教育をどのように取り組ませるか、今後、実践研究を重ねていくことが必要である。特に、高等学校における、実践事例が乏しい中、系統的・総合的に取り組む積極性が必要であり、都高等学校性教育研究会にとっては、是が非でも押し進めなければならないと強く感じている。

今年度は、下記の大会が東京で開かれます。

特に、11月10日関東大会については、8分科会の研究発表があります。要項を所属長宛に送付いたしますので、是非ご参加下さい。

☆① 第31回全国性教育研究大会開催

平成13年8月2日（木）～8月4日（土）
前日8月1日（水）夜、プレコンgress5つの発表
日本都市センター会館と一橋記念講堂にて、
テーマは、「『人間の性』と性教育」

☆②第11回関東甲信越静性教育研究大会開催

平成13年11月10日（土）
都立総合技術教育センターにて
テーマは、「生きる力と人間の性」

★都高等学校性教育研究会研究協議・総会
平成13年5月19日（土）14時30分～
講演 テーマ「未定」
神楽坂エミールにて

平成12年度 活動報告

1. 総会 平成12年5月26日(金)

神楽坂エミール

(1) 平成11年度事業報告、会計報告と承認

平成12年度役員改選

平成12年度事業計画、予算承認

(2) 講演「親と子」

講師 会津 一先生

(東京都高等学校性教育研究会顧問)

2. 役員会・理事会

4月21日(金) 役員会 都立本所高校

11月2日(木) 理事会 都立代々木高校

1月19日(金) 理事会 都立代々木高校

3月16日(金) 役員会 都立代々木高校

3. 研究活動

6月20日(火) 公開授業・研究協議会

都立深川高校

科目保健 1年「薬物乱用について」

授業者 原田幸男教諭 (深川高校)

7月 1日(土) 中学・高校合同研修会

都立国際高等学校

*「中学・高等学校における性教育の改善」

ー総合的な学習の時間における性教育ー

その他、情報交換

10月19日(木) 講演会 都立小石川高校

「人権と性」

講師 会津 一先生

(東京都高等学校性教育研究会顧問)

12月1日(金) 研究授業 都立府中東高校

「総合的な学習の時間」への試み

ーコンドームネゴシエイトー

授業者 榎 茂喜教諭 (府中東高校)

4. 研究大会

8月3日(木)～5日(土) 京都府

第30回 全国性教育研究大会

テーマ 「生きる力」を育む性教育

ー21世紀を豊かで楽しく健康に生きるー

〈プレコンテーマ〉

*第5回「青少年の性行動調査」

*「臨床医からみた10代女性の妊娠・人工妊娠
中絶・性感染症の実態」

8月24日(木)～25日(金) 埼玉県

第21回性教育宿泊研修会

テーマ「総合的な学習の時間と性教育」

11月18日(土)

長野市

第10回関東甲信越静性教育研究大会

テーマ「平等と共生を礎とした人間性を育む

性教育をいかに構築していくか」

発表テーマ「総合的な学習の時間において

性教育をどう進めるか」

発表者 榎 茂喜教諭 (都立府中東高校)

11月24日(金)

都立工芸高等学校

第21回 東京都性教育研究発表会

テーマ 「総合的な学習の時間における、

性教育の進め方」

1月27日(土)～28日(日) 土浦市

都性研・宿泊研修会

講師 田能村祐麒先生

(全国性教育研究団体連絡協議会理事長)

「親と子」 —人権の尊重を目指して—

東京都高等学校性教育研究顧問 会津 一

最近、親が子どもを殺したり、子どもが親を殺すという、あってはならないことが起きている。お互いの人権を尊ぶ子とが疎かになっている。また、すぐに暴力に頼る傾向がみられる。

そこで、人権について理解を深めてみよう。

人権とは、人間が生まれながらにして持ち、人間生活を営む上での基礎となる、普遍的、不可侵な権利。基本的人権とも言う。

人権の国際的保護が、一般に取り上げられたのは、第二次世界大戦後である。

国際連合第3回総会（1948，12，10）において、「世界人権宣言」が採択された。この宣言の第21条までが、市民的・政治的自由に重点がおかれ、人間生来の自由平等等の鑄て鑄、人種や皮膚の色・性・言語・宗教・財産などの差別のないことを宣言した。

我が国においては、憲法で基本的人権の尊重を最重点に取り上げ、その推進と理解に励むよう謳われている。

人権尊重の精神は、「親と子」「教師と生徒」「男性と女性」「経営者と労働者」「男性同士」「女性同士」など、どの場面においても、互いに蔑視することなく、相手を尊敬できるように心がけることの大切さを教えねばならない。

しかし、実態は、家庭内暴力、セクシャルハラスメントなどが後を断たず、頭を悩ます性教育の充実と発展を目指してきた先人の努力を生かして、授業に反映できる教師づくりが、今必要である。

かりやすい授業を目指す教師、教材を工夫する教師、内容を理解してゆとりのある授業を目指す教師を育成して世の中に送り出したい。

そして、世界各地で争われている内紛を含めて、平和とは何か、女性蔑視の社会からの脱却とは、など現実的な問題に取り組む姿勢を生徒に示してほしい。



グローバルな健康問題

今日は、薬物乱用防止について学習します。

今グローバルな健康教育は、何かと言うと、第一は、地球環境の破壊です。1961年、人類初の宇宙飛行士ガガーリンは、宇宙から地球を見て、「地球は、青かった」との言葉を残しました。美しい地球とは、青い海と青い空、白い雲、そして綺麗な水の流れる森林をイメージできます。そのすばらしい地球が温暖化現象などにより悪化を続けています。

二つ目は、AIDSを含めたSTD（性感染症）の蔓延です。エイズの最初の報告は、1981年アメリカ、日本は、1985年でした。最近では、若い人たちが異性間のセックスで感染しています。

三つ目が、今日学習する薬物乱用です。

こうした課題に対しては、国連やWHO、政府やNGO、NPO等とも連携して当たらねば効果は期待できません。私には関係ないとか、一部の人たちの問題であるなどと決めては行けません。自分の問題、自分の生き方に深く関わる問題としてとらえてください。

薬物乱用の定義

みなさんは、薬物乱用から何を連想しますか。先生が、What is drug abuse? と尋ねます。頭に思いつくままを述べてください。

今、いろんな言葉が返ってきました。

それでは、薬物乱用とはどういうことでしょう？

何人かに聞いてみます。

今、応えてくれた中で、薬物乱用の定義にかなったものはありませんでした。ここで、薬物乱用の定義をきちんと整理します。

薬物乱用とは、

①医薬品を医療目的からはずれて使うことです。医薬品は、病気やけがの治療、検査のために用いられるものです。

例えば、アヘン系麻薬のモルヒネは、需要が増えています。ガンや難治性の病気の終末医療には欠かせない医薬品なのです。医師の管理下で使われるので薬物乱用ではありません。このモルヒネを遊びのために使われたとすれば、これは、薬物乱用ということになります。

②医薬品でない薬品、シンナー、トルエンなどの有機溶剤は、医薬品ではなく、工業用薬品です。これらを不正に使用することです。

③依存性のある薬物には、法律で規制されています。覚せい剤取締法や毒物及び劇物取締法等です。

たばこに含まれる三大有害物質は、何ですか？

そうです。タール、一酸化炭素、そしてニコチンです。ニコチンは、強力な依存性があります。ですから、法律で規制されているのです。その法律の名前が正確に言えますか。未成年者喫煙禁止法です。お酒に含まれているアルコール、エチルアルコールも依存性があります。これも規制されているのです。未成年者飲酒禁止法がそれです。みんなは、未成年です。20歳までは、たばこもお酒も絶対に手を出してはいけません。20歳過ぎてもたばこは控えたいものです。お酒は、飲める人、飲めない人がいます。20歳を過ぎたからといって、お酒のイッキ飲みや無理強い絶対にやってはいけません。このことは忘れないでください。

薬物乱用・依存の三要件

薬物乱用の発生は、依存性のある「薬物」、それを使用する「人（固体）」、そして、使

用あるいは乱用を誘発する「環境（社会環境）の3要員によって成立すると考えられています。現在の日本は、覚せい剤と有機溶剤・シンナーが最も深刻です。そのほかコカイン、マリファナ、LSD等の乱用薬物が不正に持ち込まれています。また、今までの使用の仕方が覚せい剤なら覚せい剤、シンナーだけという単剤乱用だったのです。しかし、今では覚せい剤とハッシシ、コカインとモルヒネなど二つ、あるいは二つ以上の薬物を同時に、もしくは連続して使用する多剤乱用も増えています。いずれにしても、多くの薬物が安値で国内に持ち込まれているのです。

第三次覚せい剤乱用期と言われるように、薬物乱用者が増え、しかも、中・高校生を含む未成年者の乱用が大きな社会問題なのです。薬物が存在しても、それを使用する人がいなければ問題は無いのです。

環境要因には、社会全体の薬物に対する許容度、法律の規制、家族の貞享、友達関係、学校、職業、宗教などの社会環境要因が挙げられます。簡単に言えば、社会全体が薬物乱用に対して、無責任、無関心と言えるのです。

私たちは、この問題に対して、もっと積極的に関わり、孝道を展開しなければならない時期にさしかかっていることを自覚する必要があります。薬物乱用に対する危機意識を高めなければ、薬物乱用汚染をくい止めることはできないのです。

薬物乱用の悪循環

薬物乱用で何が一番問題であるかと言うと、依存性があることです。「依存性」があるからそこから抜け出すことがきわめて困難となるのです。依存性のない薬物は、乱用されません。精神依存性とは、一度使ったら止められなくなる性質、なんとしてでも薬物を手に入れようとする性質のことです。また、薬物によっては「身体依存性」があるものもあります。薬物の作用が弱まったり、なくなった

りすると「離脱症状」が起きます。手足のしびれ、冷や汗、イライラ、脱力感等です。

また、薬物には、「耐性」が伴います。初めての使用から、使用が連用されるようになると、使用する薬物の「量」「使用回数」がだんだんと増えてきます。薬に「はまる」と言われますが、自力で立ち直れることはできません。治療で病気はいったん治ったかにも見えても、依存性がなくなることはありません。一生、薬物の使用を断つための戦いが続くことを肝に銘じたいものです。

青少年期の発達課題

人間は、誰でも子ども時代を過ごし、思春期を経て大人となります。子ども時代にも身につけなければならないことがたくさんあったはずで、そして、みなさんは、今思春期のまただ中にあります。よく思春期の危機と言われる。危機とは、クライシスです。危ない事態、危険な状態を意味します。先生は、危機であると同時に、チャンスと捉えています。「人生第二の誕生」「心理的離乳」「二次性徴」「かわいい子には旅をさせろ」等の言葉があるように心身ともに飛躍的に変化を遂げる時期なのです。

この時期の課題は、何と言っても、成人として社会適応が可能となるために精神的な成熟を果たす必要があるのです。精神的成熟は、「社会化」と「個性化」という二つの人格の発達の課題をいろいろな葛藤状態を経験しながら身につけます。

社会化とは、社会の成員としての行動様式、規範を習得することです。大人として責任ある行動をしなさい、ルールやマナー、よりよい人間関係を築きなさいということです。

個性化とは、自己同一性を確立し、自己実現を図ること、つまり、他人とは異なる自分を見つけ、自分の夢や可能性を見だし、それを達成させることです。この二つの課題を解決するために、毎日の生活の中で自分を鍛

えなさい、人と共感し合い、協調し合って生きることを学びなさいということなのです。

薬物やファミコンに引きこもったりしていても、課題解決にならないのです。楽なこと、簡単なこと、やさしいことを優先させる「快樂原則」でなく、苦しいこと、面倒くさいことから逃げないでチャレンジする「現実原則」に徹することにより、はじめて人間的な成長が期待できることを私たちは常に考えたいものです。このことは、青年期だけの問題ではなく、成人しても必要なことなのです。尊敬され、信頼され、頼りにされ、感謝される人は、このような生活実践をされていると言えるでしょう。

薬物乱用で失うもの

薬物乱用・依存の弊害は、乱用による急性中毒（死、交通事故、反社会的行動）、薬物依存、慢性中毒による心身の障害、社会生活上の障害、後遺症という個人レベルの問題があります。薬物半在や社会経済的損失という社会的レベルの問題も存在するのです。

しかし、ここで、先生がみなさんに口を酸っぱくして言いたいのは、次の四つのことです。

①自由を失う

最初は、自由になるために使い始めた薬物によって、ある時、気が付くと自由を失っているのです。薬物は、その初期の段階では決して期待を裏切りません。人に確実に快樂をもたらします。一度乱用すると、その誘惑を断ち切ることはできません。微笑みかけてくる天使の顔の一面です。他方、薬物は確実に破滅へと導くのです。社会からはじき出され、友人や愛する人、家族を奪うだけでなく、乱用する人間の人間性を破壊します。不気味に笑う死に神の顔の一面です。失うものの大きさを忘れてはならないのです。

②創造性を失う

薬物依存者は、ふるいものに執着して、新しいものにトライして作り上げていくことが苦手です。状況の変化に弱く、行動パターンを変えられない特徴があります。

若者は、文化の創造者なのです。湧き上がる創造性が文明や文化を発展させてきたのです。科学技術の発展も、まだ十分とは言えない世界の平和や繁栄も、この創造性に頼るところが多きのです。若者が薬物依存に陥ったり、若くして生命を落とすという事態は避けたいものです。

③個人的成長を失う

薬物を使い始めた時点で、成長は、ストップします。例えば、16歳で薬物を使い始めたとします。その人が30歳になっても薬物を使い続けていたら、16歳のまま成長が止まっているのです。その大きな理由は、社会人としての生活体験なしに大きくなっただけで、人間としての中身、心理的成熟を伴っていないのです。未成年で薬物を使い始めると、リハビリテーションが成立しない可能性が高いと言えるでしょう。みんなの年齢で薬物を使えば、今の年齢のまま成長するのです。それでも薬物をやりますか。

④善意を失う

人間関係を円滑にするためには、人の悪口は言わず人を褒める。人の言うことに耳を傾けて、よく聞いてあげる、そして、共感する。慰め、励まし、支持してあげる。人にもものを頼む、やってもらったら礼を言う。自分に非があるときは、すぐに謝る等心遣いが必要です。薬物を使うとありがたうと言う気持ちがなくなります。また、自分の命も粗末にしますし、他人の生命さえ軽視するのです。このように失うものが計り知れないことを知ってください。

これで、今日の薬物乱用防止の学習を終わります。最後に数人に感想を述べてもらいましょう。

『コンドームネゴシエイト』（公開授業報告）

都立府中東高校 榎 茂 喜

1. 公開授業概要

日 時 平成12年12月1日（金）5・6 校時

授業者 東京都立府中東高等学校

教 諭 榎 茂喜

助言者 田能村教育問題研究所

黒瀬 忠生 先生

单元名 生物ⅠA・ヒトの一生

クラス 3年選択（男子14名、女子18名）

参加者 本校教職員を含め12名

2. 指導内容

新学習指導要領により、新しく「総合的な学習の時間」が設けられることが決まった。この「総合的な学習の時間」は、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの生きる力を育むために創設されたものである。

また「性教育」は、自己の性を認識し、豊かな人間関係を築く中で直面する性の諸問題を適切に判断し、対処する能力や資質を育てることを一つの目的としている。そのため、「総合的な学習の時間」は性に関する学習を深く、統合的に行うには適している。特に、性教育の重要課題である、自己の在り方・生き方についてを考察する学習活動に関しては、この「総合的な学習の時間」によって、横断的・総合的に扱われることが学習の成果をあげるためには必要である。

現行および新学習指導要領いずれにおいても『性教育』の記述はないが、総則・教科・特別活動等の記述には性教育に関連する事項がある。また教科においては特に、公民科・地歴科・理科・保健体育科・家庭科を中心として、性に関する学習が扱われ

ている。しかし、今までの性教育はどちらかといえば、内容を断片的に取り上げ、一方的に知識や授業内容を教えることが多くみられ、多くの学校では画一的な知識偏重の授業が行われてきていた。自分の興味・関心から自ら学習することはあまりなかった。

WHOでは、ライフスキルを「日々の生活における要求や対応において効果的に対処できるような、適切で積極的な行動をするための能力」と定義している。これは、「総合的な学習の時間」が目指す、生きる力とも共通する考え方である。つまり、ライフスキルトレーニングを行うことは、生きる力や豊かな人格形成にとって重要であると考えられる。ライフスキルトレーニングを教育として扱う場合には、主としてグループワークによる集団指導が中心となるが、ロールプレイ・ケーススタディ・ディスカッション・ディベートなど様々な方法を行うには、総合的な学習の時間を有効に活用することが必要となってくる。

そこで、以下の様な観点において授業を展開することを考えた。

- ① 総合的に性に関する学習を行うことによって、生徒自身の性に対する意識を高める。また、性に対する考え方や意思決定について学ばせる。
- ② 人間の性について調べることにより、人間だけが持つ性に関する問題点を考えさせ、また人と人との関わりについて考えさせる。
- ③ 社会の一員としてのライフスキルを身に付けるためのトレーニングを行う。
- ④ 心身ともに健康であることについて考え、実践する態度を育む。
- ⑤ 探究を中心とした学習では、個人やグ

ループにおいて、討論や活動が円滑に行えるよう、助言及び指導を行う。

3. 学習の流れ

今回の公開授業では、コンドームの使用交渉を通して、コミュニケーションや意志決定の能力育成を主題において授業を計画した。

性交は動物にとって種の保存として重要なものであるが、人間にとっては生殖のためだけではなく、快楽や愛情の表現としても大切な意味を持っている。しかし、生殖つまり妊娠出産を期待しない性交を行う場合においても、避妊についてあまり考えない傾向が近年強くなってきている。また、高校生の性交経験も増加傾向にある。そこで、高校生でもできる避妊方法であるコンドームを使うことについてのロールプレイを通して、意志決定や問題解決の能力の育成を重点においた学習を設定した。また、具体的目標な学習目標として、以下の点を重点におき、学習を行った。

- ① グループ討論を通して、性に関する事項について、自分自身で考える能力を育成する。
- ② コンドームを使用することの交渉から、自ら判断し、行動できるような人格の形成をめざす。
- ④ 学習の過程を通じて、ライフスキルの育成を行う。

生物ⅠAは、3年生の選択科目として開設している、週1回、5・6時限の2時間続きの講座である。2枚の学習プリントと1枚の資料プリントを用いて、グループ別作業と発表を主に学習を進めた。以下にその主な学習の流れを示す。

- ① いやな相手からの誘いを断る方法を各自考え、それを作業プリントに書き出し、その後発表させる。
- ② 学習開始時の避妊に対する生徒（自分

達）の意見を読んでそれに対する考えをグループごとにまとめる。

- ③ コンドームの特徴をまとめる。
- ④ 交渉を行うために、あらかじめグループ内で想定問答例を考える。
- ⑤ 性交時においてコンドームを使うことについての交渉をグループの代表が演じる。
- ⑥ ロールプレイを見たり演じたりした感想を出し合い問題点を考える。
- ⑦ 自己評価と授業の感想を各自書く。

4. 授業のまとめと考察

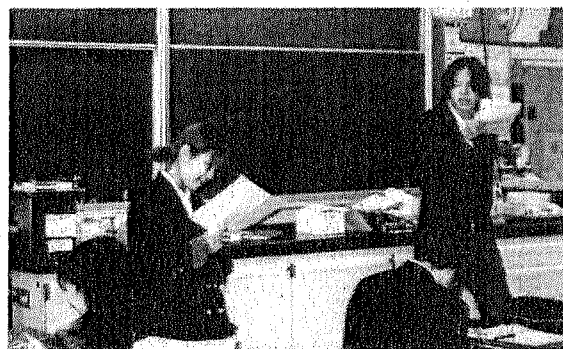
今回の、一連の性に関する学習に先立って性に関するアンケートを行った。その結果、『「性」という言葉を聞いて、あなたにはどのようなイメージがわきますか』との質問に対しては、「男と女（もしくは男および女単独）」という回答が17名と圧倒的に多く、「妊娠」が4名と次に多かった。

次に、『性教育で知りたいことや疑問に思っていることはなんですか』という質問に対しては、「性病（エイズを含む）」という回答が11名で最も多かった。また、『「性交（セックス）」という言葉から連想される言葉を5つあげて下さい』という質問に対しては、「妊娠」という回答が最も多く（20名・複数回答）、続いて、避妊（15名）、性病（15名）、エイズ（10名）、愛（10名）の順であった。

生徒は今まで「性」についてしっかり考えたことがあまりないようであった。関心も、心の問題よりも、避妊や妊娠、性感染症など、体に関する問題のほうが高い。また、性教育というと、避妊やエイズや性周期などの知識を得る学習であると考えている生徒が多い。そこで、今回は、心の問題、特に人と人との関わりを重点において授業の展開を試みた。生徒は真剣に考え、

心に作業を行っていた。また、グループ討議では活発に意見を出し合って、教師の指導や助言をあまり必要としないほど自分たちで学習を進めていた。ロールプレイについても楽しそうに集中して学習を行っていた。この授業終了後の生徒の感想から代表的なものを紹介する。

- ・ コンドームの大切さを知った。他の避妊方法に比べたら、手軽だし、値段もそんなに高くないし、自分のことや、相手の事を大事に思うなら、コンドームをつける方が良いと思う。
- ・ 相手のことも自分のことも大切にするために、自分の意志はしっかり持っていないといけないと思った。
- ・ 避妊は、自分を守るためにも、相手を考えればこそするものだと思う。
- ・ 他の人の意見や考えが聞けてよかった。やっぱり避妊はしなきゃいけないと思う。
- ・ 避妊は絶対しなきゃいけない。ゴムも大事な存在だと思った。今日の授業も勉強になった。
- ・ 女側の意見と、男側の意見とでは、結構違いが大きかった。だから、話し合いをして、お互いの考えをもっと理解するコトが必要だと思った。
- ・ つけること＝2人の将来を考える、だと思ふから、愛し合っているなら、2人でよく話し合って、ちゃんとつけるべきだ。
- ・ こういう事はとっても大切な事だから、ひとりひとりがちゃんと考えなきゃいけない。避妊についてもっと重く受け止めなければいけない。
- ・ 自分で交渉することとか体験できて、交渉のむずかしさを知ることができました。
- ・ 妊娠や避妊について色々考えることが出来た。色々なトラブルをさけるために避妊はした方がいいと思った。



最近の生徒の傾向として、「自分自身で考えることをしない」「他の人の意見を聞くことができない」「他の人と上手くコミュニケーションをとることができない」などの問題点がみうけられることが多くなっている。これらの問題点を解決するためには、教科・科目の授業と異なり、自由に学習内容を構成できる『総合的な学習の時間』が有効であると考えられる。そのなかでこれらの「生きる力」の育成に結びつくようなライフスキルトレーニングを行うことは大切であると思われる。

性教育に関しては、生徒の興味・関心は高く、学習意欲も普段の理科の学習内容と比較して高い。また、生徒にとってグループによる話し合いや発表が中心の授業は、あまり経験したことがなく、特にロールプレイは授業形式としてはなじみがないものである。しかし、感想にもあるように、生徒自身も考えることや、他の人と話し合うことの楽しさを理解している様子がうかがえる。自己評価では、「自分の考えをもつことができたか」では100%、「自分の意見をきちんと発表することができたか」では89%、「他の人の意見に対してきちんと自分の意見をだせたか」では、93%と、高い数値が得られた。今回のような学習を繰り返すことにより、生徒にとって、性教育の内容の理解だけでなく、ライフスキルの育成に十分な効果を及ぼすと考えられる。そして、それは豊かな人間性を育むことに直接的に結びつくと考えられる。

「総合的な学習の時間」 学習指導案

日 時 平成12年12月1日(金) 5・6校時
指導学級 東京都立府中東高等学校 第3学年
選択科目生物ⅠA 男子14名 女子18名
授業者 東京都立府中東高等学校教諭 榎 茂喜

1. 領域名「性教育」

2. 領域設定の位置づけ

(1) 総合的な学習における領域の位置づけ

新学習指導要領により、新しく「総合的な学習の時間」が設けられ、現在移行期間である。この「総合的な学習の時間」は、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの生きる力を育むために創設されたものである。また、「性教育」は、自己の性を認識し、豊かな人間関係を築く中で直面する性の諸問題を適切に判断し、対処する能力や資質を育てることを一つの目的としていることもあり、「総合的な学習の時間」は性に関する学習を深く、統合的に行うには適している。特に、性教育の重要課題である、自己の在り方・生き方についてを考察する学習活動に関しては、この「総合的な学習の時間」によって、横断的・総合的に扱われることが学習の成果をあげるためには必要である。

(2) 教材観

- ① 現行および新学習指導要領いずれにおいても、『性教育』の記述はないが、総則・教科・特別活動等の記述には性教育に関連する事項がある。教科においては特に、公民科・地歴科・理科・保健体育科・家庭科を中心として、性に関する学習が扱われている。しかし、今までの性教育はどちらかといえば、内容を断片的に取り上げ、一方的に知識や授業内容を教えることが多くみられた。特に高等学校では、大学進学を控えていることもあり、多くの学校では画一的な知識偏重の授業が行われてきていた。自分の興味・関心から自ら学習することはなかなか難しいものがあった。
- ② 理科における性教育では、人体の構造や生殖・発生のしくみ、ホルモンと性周期などについて、科学的な側面からの基礎的な知識の習得を目的とした講義形式の授業形態が中心となっている。また、ヒトを一つの生物例として扱うために、ヒトだけが持つ特異性についてはあまり扱わない。そのために、生徒自身が性に関しての問題意識をあまり持つことがないという傾向にある。
- ③ 中学校では、「理科」において、細胞の構造、体細胞分裂、有性生殖・無性生殖を学習している。特に生殖ではカエルについての卵と精子の形成・構造・受精と発生を学習している。また、「保健」においては、二次性徴や身体や精神の発達、心身の調和について学習している。さらに、健康と環境や生活と疾病についても学習している。また、「技術・家庭」では、幼児の心身の発達について学習している。

(3) ライフスキルの育成と学習活動

WHOでは、ライフスキルを「日々の生活における要求や対応において効果的に対処できるような、適切で積極的な行動をするための能力」と定義している。これは、「総合的な学習の時間」が目指す、生きる力とも共通する考え方である。つまり、ライフスキルトレーニングを行うことは、生きる力や豊かな人格形成にとって重要であると考えられる。ライフスキルトレーニングを教育として扱う場合には、主としてグループワークによる集団指導が中心となるが、ロールプレイ、ケーススタディ、ディスカッション、ディベートなど様々な方法を行うには、総合的な学習の時間を有効に活用することが必要となってくる。

(4) 指導観

- ① 総合的に性に関する学習を行うことにより、生徒自身の性に対する意識を高め、考え方や意思決定について学ばせる。
- ② 人間の性について調べることにより、人間だけが持つ性に関する問題点を考えさせ、また人と人との関わりについて考える。
- ③ 社会の一員としてのライフスキルを身に付けるためのトレーニングを行う。
- ④ 心身ともに健康であることについて考え、実践する態度を育む。
- ⑤ ビデオ教材や資料を活用することにより、情報収集や処理などの情報活用能力を養う。
- ⑥ 探究を中心とした学習では、個人やグループにおいて、討論や活動が円滑におこなえるよう、助言及び指導を行う。

3. 領域の目標

(1) 総括目標

- ① 男または女としての自己認識を確かにさせるとともに、異性に対する認識を深めさせる。
- ② 人間尊重の精神に基づいて男女の人間関係を築くことができるようにする。
- ③ 家庭や社会の一員として生きていくうえで必要な人間の性に関する基礎的・基本的な事項を習得させ、現在及び将来の生活において、性にかかわる諸問題に対して、適切な意思決定ができるようにする。

(2) 具体的目標

- ① 自然現象への関心・意欲・態度
 - ア. 動物や人間の生殖・発生・遺伝について意欲的に調べようとする。
 - イ. 性に関する学習において、自分自身の意見をもつようにする。
- ② 自然現象についての知識・理解
 - ア. 動物の生殖や発生についてのしくみがわかる。
 - イ. 人間の生殖や発生では人間特有な現象がみられることがわかる。
 - ウ. 人間のライフサイクルにおける変化のしくみがわかる。
 - エ. 人間の体、特に男女の違いについてのしくみや役割がわかる。
- ③ 科学的思考
 - ア. 生命現象についての一様性と特異性を理解する。
 - イ. 今までの学習をもとにして、人間の持つ特徴を考える。
 - ウ. 体のなかには一生をおくるためのさまざまなしくみがあることに気づく。
- ④ 探究活動の技能・表現
 - ア. 資料としての教材からの、情報収集および処理のしかたを習得する。
 - イ. グループでの討論のしかたを習得する。
 - ウ. 調査・研究の結果をまとめたり、発表するしかたを習得する。
- ⑤ 性に関する知識・理解
 - ア. 人間の生殖についての基礎的な知識を理解する。
 - イ. 人間の生殖、特に性交行動についての特異性を理解する。
 - ウ. 人間の性交行動における特徴や問題点を考える。
- ⑥ 社会的な側面
 - ア. 家庭や社会の中における人と人との関わりについて考える。
 - イ. 男女の性役割や関わりについて学習する。
 - ウ. 効果的なコミュニケーションを行えるような訓練を行う。

4. 指導計画

(1) 領域全体の指導計画（平成12年度・全18時間）

9/8	オリエンテーション	(2時間)	アンケート・資料の利用
9/22	意思決定をしよう	(1時間) ☆	個別学習・集団討議
	性行動における選択	(1時間) ☆	ケーススタディ
9/29	自分が考える男性像・女性像	(1時間) ☆	絵画表現・集団討議
	男女の関わりを考えよう	(1時間) ☆	グループ学習
10/6	家族ってなんだろう	(2時間) ☆	シナリオ作成・ロールプレイ
10/20	男の体・女の体	(1時間)	資料の利用・一斉学習
	脳と神経	(½時間)	一斉学習・資料の利用
	性衝動と反応	(¼時間)	一斉学習・資料の利用
	性に関する問題点	(¼時間)	個別学習・資料の利用
11/10	動物とヒトの生殖	(2時間) ☆	ビデオ教材・グループ学習
11/17	妊娠と発生	(1時間)	ビデオ教材・調査
	ホルモンと性の成熟	(½時間)	資料の利用・一斉学習
	妊婦体験	(½時間) ☆	体験実習
11/24	性感染症・エイズ	(1時間)	資料の利用・個別学習
	避妊と中絶	(1時間) ☆	ビデオ教材・グループ学習
12/1	コンドームネゴシエイト	本時(2時間) ☆	ロールプレイ

☆印はライフスキルトレーニングを主体とする学習活動

5. 本時の指導計画

(1) 学習主題設定の理由

性交は動物にとって種の保存として重要なものであるが、人間にとっては生殖のためだけではなく、快楽や愛情の表現としても大切な意味を持っている。しかし、生殖つまり妊娠出産を期待しない性交を行う場合においても、避妊についてあまり考えない傾向が近年強くなってきている。また、高校生の性交経験も増加傾向にある。そこで、高校生でもできる避妊方法であるコンドームを使うことについてのロールプレイを通して、意志決定や問題解決の能力の育成を重点においた学習を設定した。

(2) 具体的目標

- ① グループ討論を通して、性に関する事項について、自分自身で考える能力を育成する。
- ② コンドームを使用することの交渉から、自ら判断し、行動できるような、人格の形成をめざす。
- ③ 学習の過程を通じて、ライフスキルの育成を行う。

(3) 展開 主題 「コンドームネゴシエイト」

	主な学習活動	生徒の活動	指導上の留意点
導入 (25分)	グルーピング (一斉授業)	各自に数字を考え、声を出さずに握手だけで仲間をさがす	生徒の人数に応じて作るグループの数を調節する
	アイスブレイキング	伝言ゲームをする	新しいグループの中での緊張をほぐす
	ブレインストーミング	いやな相手からの誘いを断る方法をあげる	自由な発想を尊重し、どんどん記入させていき、その後発表させる

	主な学習活動	生徒の活動	指導上の留意点
展開 (20分)	グループワーク レクチャー	学習開始時の避妊に対する生徒の意見を読んで、それに対する考えをグループごとにまとめる 本日の学習活動を理解する	資料の配付 パンフレット及びコンドームの配付
	休み時間(10分)		
展開 (30分)	グループワーク ロールプレイ	コンドームの特徴をまとめる 交渉を行うために、あらかじめグループ内で想定問答例を考える 性交時においてコンドームを使うことについての交渉をグループの代表が演じる 何組かの例を生徒を変えて演じる 聞いている生徒は、その内容と意見や感想を書く 各自、気付いた点をプリントに入しする	資料・作業プリントを配付する 机間指導により、討論が進むように助言をおこなう 論理的な反論ができるように助言をおこなう デロールは首にぶら下げたボードをとることにより確実に 友人と意見を交換しながら記入させる
まとめ (15分)	シェアリング まとめ	他の人の演技を見て、または自分で演じて見ての感想を出し合い、問題点等を引き出す 観点別に自己評価を行う 授業の感想をまとめる	分かち合うことにより、問題点を理解する 達成度に応じて4段階で評価させる

(4) 学習指導上の留意点

- ① グループワークにおいては、グループ内で出てきた意見や、収集した情報を処理する場合に、特定の人物の意見や固定観念に捕らわれずに、自由な発想が出てくるように心掛ける。
- ② ロールプレイにおいては、場面の設定や配役について適切な指導を行う必要がある。また、人権については特に配慮が必要である。

(5) 学習の評価と反省

- ① 自分の意見を持つことができたか。
- ② 自分の意見を発言・発表することができたか。
- ③ 他の人の意見に対して的確に自分の意見を出すことができたか。
- ④ 意見や必要な情報を処理してまとめることができたか。

報告用紙 No. 1

1. いやな相手から誘われた場合にことわるには、どのような返事（言い訳）をしたら良いと思いますか。思いつくかぎり書き出して下さい。

2. 他の人の発表を聞いて、自分の書いたものの以外の返事があれば下に記入して下さい。

3. 配付された「避妊の実行状況のグラフを見ての意見・感想」について、他の人の意見などを読んで、グループごとに話し合い、意見をまとめてみましょう。

4. コンドームの特徴（購入・使用法・効果など）を利点・欠点含めて考えて、書き出してみましょう。

年 組 番氏名

報告用紙 No. 2

5. コンドームを使いたくないまたは使いたいという意見や理由にはどのようなものがあると思いますか。また、それに対するの反論を考えてみましょう。

使いたくない理由	それに対する反論
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑

使いたい理由	それに対する反論
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑
↑	↑

6. コンドームを使うという交渉を、自分で演じたり、他の人が演じたりしたのを見てどのようなことが分かりましたか。また、どのようなことを考えたり感じたりしましたか。グループで話し合ってみましょう。

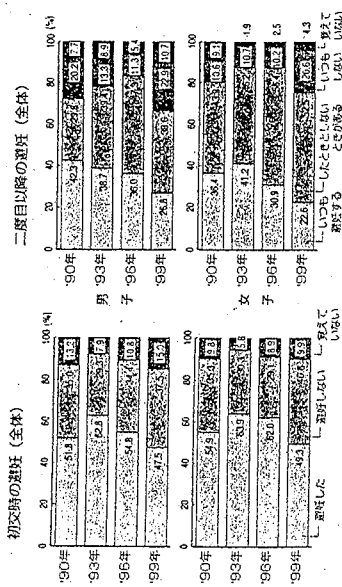
7. 自己評価（4段階のあてはまるところに○印をつけて下さい）

	とても	でき	あまり	まったく
	よくできた	できた	できなかった	できなかった
・自分の考えをもつことができま したか？				
・自分の意見をきちんと発表する ことができたか？				
・他の人の意見に対してきちんと 自分の意見をだせましたか？				
・資料や発表の内容をまとめるこ とができ了吗か？				

8. 本日の授業の感想を書いて下さい。

年 組 氏名 番氏名

※資料 下のグラフで表されている、高校生の性に関する調査の結果を見て、自分の考えや感想を書いて下さい。



「避妊の実行状況」のグラフを見ての意見・感想

- 【男子】
- できるだけ、避妊をして、まだ経済力のない自分だから、にんしんをしないように注意して、相手のことも考えながら、行動するのがよいと思う。
 - 避妊は、してはいけないとはいえないけれど、してもよいとも言えません。自分達がしかしたことだから責任がとれないなら、最初からするなとはいいたい。
 - 子供ができた時のことを考え、高校生では避妊はしたほうがいいと思う。
 - ちゃんとした。自分一人のめんどうもみれない高校生が、そんな大きな責任を担うわけがないから、責任能力がないうちは、しっかり避妊をするべきだと思う。
 - 初めての時は避妊する傾向が見られる。その後は、あまり避妊しないようだが、その数はだんだんと減ってきている。いつも避妊しないという割合も、だんだん増えてきている。
 - 問17、してないよ。問18、なんかめんどくさいのでやったりやらなかったりする。
 - 今の自分たちの年れいでは、子供が出来たら、どうしようもできないので、必ず避妊をするべきだと思う。
 - 避妊は持っていない時があるかもしれないので、状況によると思います。でも、なるべく避妊したほうがいいです。
 - やっぱり避妊はするべきだけど、ついつい忘れちゃったりしちゃうし、ゴム付けるときって、けっこうきめんなだよね。だから、あまり深く考えてないです。一度目のほうが避妊する人が多いと思うが、二度目以降がへっているのはよくないと思う。
 - 避妊は絶対したほうがいいと思います。もしできちゃったら大変だと思います。
 - 避妊はするべきだと思う。
- 【女子】
- ふつうはほとんどが避妊しなくちゃいけないのにグラフを見て、こういう結果でびっくりした。
 - 一回目とか二回目とかそういう問題じゃなくってとりあえずひにんはぜたいひつようだと思う。
 - 避妊は絶対するべき。男の人は、避妊する責任があると思う。それができないのなら性交をしないほうがいいと思う。結局傷つくのは女の方が多いから。
 - ひにんをする人がへってきているのがわかる。みんな平気なものだと考えているんだらうけど、にんしんしたらどうするんだらう。
 - 「ひにん」はいつでもでもするべき。昔よりひにんする率が低下しているのは、びっくり。責任持てないなら「ひにん」はするべし！！
 - 問17、避妊はしたほうがいい。
 - 問18、避妊はしたほうがいい。
 - 私は避妊は、自分の将来のためにも相手の将来のためにも、子供がほしいと思っていないのであれば避妊したほうが絶対にいいと思う。
 - みんな、妊娠について軽く考えすぎているのではないかと思う。私はまだ、そういう経験はないからよくわからないけど、でも、そういうのはきちんとした方が自分のためにも相手のためにもいいんじゃないかと思う。子供ができて困るのに、避妊しないというのはおかしいと思う。
 - 問17、避妊しなかった。相手が避妊するって言わなかったから、そのままって感じで...
 - 問18、避妊した。ちゃんと相手は何も言わなくてもつづけてくれたから。
 - 問17、してない。理由はお互い準備してなかったから。
 - 問18、未経験なのでまだわからない。
 - 避妊したけどももっと多いかと思うけど、半分くらいしかいないのに驚いた。右のグラフでいっつも少ないかがあるのにもビックリ。妊娠ということに対してどうしてもっと真剣になれないのかと不思議に思う。子供ができておろせば何とかなるとか、そういう問題じゃないしそういう考えは絶対にやめてほしいと思う。
 - 絶対にしなけれはいけないと思う。雰囲気の流れに流されちゃいけない。
 - 初めての時はしたけど、二度目以降はほとんどしてない。でも結婚するまで避妊はするべきだと思う。
 - 初めは避妊している人の方が多いけど、二度目以降はしていない人のほうが多くなっていく。年々避妊していない人がふえているのが気になる。

中学校・高等学校性教育研究会合同研修会

日 時 2000, 7, 1 (土) 14:30 ~ 16:30

会 場 都立国際高等学校

内 容 「新学習指導要領において、性教育は、どのように展開できるか」

新しく学習指導要領が改訂され、新教育課程が施行されようとしている今、学校全体で性教育に取り組んでいくには、どのような視点にたって、その展望を考察していく必要があり、何を求めているかなくてはならないのだろうか。

現行及び従来の学習指導要領のもとで、行われてきた性教育の問題点について考えてみると、その最も大きなものは、教科のそれぞれの単元の展開と担当教師の指導方針にまかされっぱなしになっていることではないだろうか。特に、保健体育科の「保健」の時間における、性教育に関する単元の取り扱いと、それを指導する教師の力量に任せられっぱなしのような気がする。

しかし、現行の学習指導要領を探ってみても、以下のように、各教科において性教育を展開できる素地（単元）があるのである。そこで、現行の学習指導要領と新しい学習指導要領を対比して今後の性教育在り方を探ってみたい。

	現 行	新
保 健	(3) 生涯を通じる健康 ア家庭生活と健康 「思春期と性」「性機能と成熟」 「妊娠」「出産」「母子保健」 「家族計画」など 生殖器系の機能に付いては必要に応じ て関連づけて扱う (4) 集団の健康 ア疾病の予防活動 「感染症の予防」「エイズの予防」 「成人病」などについて、様々な 予防活動が行われていること	(2) 生涯を通じる健康 ア生涯の各段階における健康 「思春期と性」「家族計画」 「母子保健」「老人保健」など 生殖に関する機能は、必要に応じ 関連付けて扱う (1) 現代社会と健康 イ健康の増進保持と疾病の予防 「感染症の予防」など

	現 行	新
生 物 I	(4) 親から子へ アヒトの一生 「ヒトの受精」「発生」「成長」 「老化」など イヒトの遺伝 「染色体」「遺伝子」など	(1) 生命の連続性 イ生殖と発生 「生殖細胞の形成と受精」 「発生とその仕組み」など
家 庭 一 般	(1) 家族と家庭生活 (6) 乳幼児の保育と親の役割 ア青年期の生き方と結婚 「第二次性徴」「愛と性」など イ母性の健康と生命の誕生 「結婚」「出産」「保育」など	(1) 人の一生と家族・福祉 ア生涯発達と家族 「男女の協力」「家族や家庭生活」 イ乳幼児の発達と保育・福祉 「親の役割と保育」 「子どもを生み育てることの意義」
現 代 社 会	(1) 現代社会における人間と文化 ウ現代社会の特質と青年期の課題 「第二の誕生」「アイデンティティ」 「欲求」など	(2) 現代の社会と人間としての 在り方生き方 ア現代の社会生活と青年 「生涯における青年期の意義と 自己形成の課題」など
倫 理	(1) 青年期と人間としての在り方生き方 ア青年期の課題と自己形成 「人間性の特質」 「適応と個性の形成」など	(1) 青年期の課題と 人間としての在り方生き方 「豊かな自己形成」 「他者と共に生きる自己の生き方」
H R	「男女相互の理解と協力」など	「男女相互の理解と協力」など

今回の改定で新しく総合的な学習の時間が設定されることになったが、その活動事例には、「性」に関する主題が取り上げられたものは皆無といってもよい。しかし、性教育とのかかわりを持てる方策がはずである。それは、どのようなものかを探してみたい。総合的な学習の時間のねらいは、

- (1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる
 - (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようになる
- の二つである。

そして、各学校において、このねらいを踏まえ、地域や学校の特色、生徒の特性等に応じ、「例えば」として、3項目をあげている。

ア 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動

イ 生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動

ウ 自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動

では、これらの活動内容に性教育をどのように取り込んでいけるのだろうか。その一つの方
向性として、次のようなことが考えられる。

◆「福祉・健康」の横断的・総合的な課題についての学習活動

◇ねらい

(1)健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる

(2)そのための現代社会の健康問題を認識し、課題を設定し、その解決に取り組む

◇課 題

「性」・「エイズ」・「薬物乱用防止」・「防災」・「食生活と栄養」・「健康と社会」
・「体験活動」 など

◇内 容

「性」の内容として考えられることとして、

- ・体の発育
- ・発達に関すること
- ・心の発達に伴うこと
- ・男女の人間関係に関すること
- ・社会的な事象に関すること など

このような内容を基に、各人の課題を設定し、共通の課題の者をグループ化して、協力して
学習させたり、個人として学習させることが可能であろう。

今後の各校種の研究会の研究課題である。

第21回 性教育宿泊研修会 報告

日 時 平成12年8月24日(木)～25日(金)

会 場 (財)埼玉県県民活動センター

埼玉県伊奈町小針内宿1600

主 催 東京都幼・小・中・高性教育研究会

埼玉県性教育研究会

時 程 《8月24日》

講演1 「総合的な学習の時間と性教育」

田能村 祐麒

(田能村教育問題研究所)

講演2 「少年の規範意識の変化について」

内山 絢子

(科学警察研究所)

分科会 中学校・高等学校部会

中学校 桶上 典子

(足立区立六月中学校)

高等学校 井谷 享

(都立武蔵高等学校)

《8月25日》

講演1 「自分学・他人学」

宮原 忍

(日本子ども家庭総合研究所)

講演2 「アニメーション教育」

武田 敏

(千葉大学 名誉教授)

分科会報告

講演3 「21世紀の性教育を考える」

野津 有司

(筑波大学 助教授)

《高等学校発表の概要》

・指導の重点

- ① 教科・科目や特別活動をふまえ、総合的に性に関する学習を行うことにより、生徒自身の性に関する意識を高め、考え方や意志決定を学ばせる。
- ② 人間の性について調べることにより、人間だけが持つ性に関する問題点を考えさせる。また、人と人との関わりや人権についても考えを深めさせる。

② 人間の性について調べることにより、人間だけが持つ性に関する問題点を考えさせる。また、人と人との関わりや人権についても考えを深めさせる。

③ 社会の一員としてのライフスキルを身に付けるためのトレーニングを行い、生きる力を育む。

④ 心身ともに健康であることについて考え、生徒一人一人が実践する態度を育む。

⑤ 視聴覚教材や資料の活用や、調査・実験観察および見学などの活動を行うこととおして、情報収集や情報処理などの情報活用能力を養う。

⑥ 探究を中心とした学習では、個人やグループにおいて、討論や活動が円滑に行えるよう、助言および指導を行う。また、ロールプレーやディベート等の方法を用いる場合は、その学習法を学ばせておく。

・指導計画

①心を知ろう

A 性に関する関心

思春期の性 性に関する問題点

B 男女の人間関係

意志決定 性に関する問題点

男性像・女性像 男女の関わり

C 家庭や社会における人間関係

家族

②体を知ろう

A 身体の発達

男の体・女の体 ホルモンと性の成熟

脳と神経

B 人間のライフスキル

妊娠と発生 性と遺伝

C 健康な体

薬物の影響 性感染症

避妊と中絶

第21回 東京都性教育研究発表会 報告書

- ・期 日 平成12年11月24日(金) 14時～16時50分
- ・会 場 東京都立工芸高等学校 視聴覚室
- ・テーマ 【総合的な学習の時間における性教育の進め方】
- ・対象 都内公私立 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・養護学校の教職員と保護者及び、その関係者

- ・内容 ①開会の挨拶 東京都小学校性教育研究会副会長 猪股 和子
- ②都性研会長挨拶 東京都幼小・中・高性教育研究会副会長 小泉 功
- ③研究発表 「総合的な学習の時間の実践報告」

東京都江戸川区立本一色小学校教諭 内野 宏史

※主題「With You -あなたを忘れない-」とした学習指導案を基に発表を行った。主な内容としてエイズ感染者に対する偏見や差別についての課題学習や学習報告会について等が盛り込まれていた。

「総合的な学習の時間の実践報告」

東京都足立区立六月中学校教諭 桶上 典子

※主題「性の社会問題を考えよう」とした学習指導案を基に発表を行った。『10代の妊娠について』、『セクハラについて』等を課題としたグループ学習の経過の発表を行った。

「性教育に関する実践報告」

東京都都立久留米西高等学校教頭 竹内 章

※課題設定から評価までの学習の展開例を提示し、プレゼンテーションやアンケート調査の方法の学習例等まで詳細に報告が行われた。

- ・講評 東京都教育庁体育部体育健康指導課 指導主事 薄井 和久
- ※講評の他に、性に関する都民からの問い合わせ内容、総合的な学習の時間の意味や定義の確認、新学習指導要領に示された各教科・領域等の内容と性教育との関連について等の講演いただいた。教育現場ではなかなか入手できない情報をご指導いただき、とても参考になった。

- ・講演 「総合的な学習における性教育の取り組み」

神奈川県立大和西高等学校養護教諭

阿部 真理子

※Ⅰ 総合的な学習の時間と性教育

Ⅱ 県立大和西高等学校での性教育の取り組み

①本校の概要

②生徒の実態

③エイズ教育の導入から性教育

④教科「保健」を中核としたエイズ(性)教育

⑤本校の総合的な学習(検討中)の時間における性教育

Ⅲ 今後の課題

エイズ教育の導入から性教育への実践例やライフスキルの学習等の実践例のご講義をいただき、今後の指導に大いに役立つものであった。

- ・閉会の挨拶 東京都高等学校性教育研究会副会長 筒井 邦夫

◎135名のご出席をいただき、多大な成果を収めることができた。

都性研 一泊研修会報告

高性研会長 小泉 功

都性研宿泊研修会が平成 13 年 1 月 27 日（土）～28 日（日）土浦サンレイクホテルを会場に 20 名の参加者によって開催された。

あいにくの大雪であったが、田能村祐麒先生の講演は、「教育課程の改善と性教育」を主題に、昭和 20 年 8 月 15 日以後の性教育の変遷を社会情勢と学校教育をからめてまとめられ、熱っぽく話をされていました。

講演後に参加者との話し合いでも、日本の学校教育における性に関する変遷についての理解が深まったとの、意見や質問がかわされ、熱気のある会であった。

翌日は、土浦市内と霞ヶ浦の視察など三々五々に移動しながら帰途についた。

尚、田能村先生の講演内容をまとめ、下記に記します。

☆講演要旨

主題「教育課程の改善と性教育」

教育課程審議会は、「教育課程の基準の改善について」（平成 10 年 7 月 29 日）に答申し、「教育課程の基準の改善のねらい」を次のように掲げている。

- (1) 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること
- (2) 自ら学び、自ら考える力を育成すること
- (3) ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かし教育を充実すること
- (4) 各学校が創意工夫を生かし、特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること

この答申に基づいて、文部科学省は、幼稚園の新教育要領および小・中・高等学校の学習指導要領を公布し、幼稚園は平成 12 年度、小・中学校は平成 14 年度、高等学校は平成 15 年度から実施することとなった。

これらのことを受けて、学校の性教育も当

然、その内容・方法の改善を行う必要があるが、近年、児童生徒の性意識、性行動が大きく変わり、学校の性教育に対して各方面から多大の期待が寄せられている。しかし、教育関係者の性教育に対する関心は低く、新学習指導要領に示された「総合的学習の時間」の計画例や実践例をみても、性教育に関する事例は僅少であり、それも生命誕生やエイズなどに限られている。

これらのことから、今後の学校における性教育のあり方を考えるためには、次の 2 つの基本的な課題に取り組む必要がある。一つは戦後、教育課程の基準がどのように改善されてきたかを知ることである。そこには教育思想の変遷が映し出されているからである。

他の一つは学校における性教育とは、どのような教育活動であるかという概念を明確にすることである。その上で学校の教育課程に児童生徒の性の学習をどのように位置づけていくかを具現化していくことが必要である。

I 教育課程改善の推移

（中略）そこで戦後の教育課程の改善の推移やその社会的背景について概略を示すと次のようである。

- (1) 昭和 20 年代（略）
- (2) 昭和 20 年代後半～昭和 40 年代前半（略）
- (3) 昭和 40 年代後半～昭和 60 年代前半（略）
- (4) 今次の改訂（略）

II 学校における性教育の流れ

- (1) 敗戦による混乱期（略）
- (2) 昭和 40 年～昭和 60 年代（平成 11 年まで）

以上

（まとめ）

田能村先生の講演のレジメをすべて掲載することが出来ず残念です。しかし、参加された方は、今後の性教育の実践研修に役立つエネルギーを得たのではないかと思います。

第30回全国性教育研究大会報告

日 時 平成12年8月3日(木)～5日(土)
〔8月2日(水) 6時～プレコングレス〕

会 場 京都府民総合プラザ・京都テルサ

基本テーマ 「生きる力」をはぐくむ性教育

－21世紀を豊かで、楽しく健康に生きる－

大会に先駆けてのプレコングレスでは、2名の方からの報告があった。1本目は日本性教育協会が、ほぼ6年間隔で実施している、青少年の性意識と性行動に関する調査「第5回青少年の性行動調査」の結果について、調査委員である、片瀬一男東北学院大学教養学部教授からであった。

数字を基に、性欲求と性行動の年齢的变化・時代的变化、促す要因、性的被害の実態、性知識・性情報と性教育について分析結果を報告。生徒に性教育をする立場の者として、広範囲の性教育を受けた者ほど性教育の影響をあげる者が多く、「役立った」とする者も比較的多く見られる。との報告に、これからはしっかりと性教育をしていかなければと思いを改めた。

2本目は、大阪府立母子保健総合センター名誉顧問、竹村喬氏より「臨床医からみた10代の妊娠とその問題点」と題しての報告があった。母子衛生の主なる統計から10代の妊娠が増加してきていること。また、母子衛生センターでの多年の経験にもとにされての具体的な10代人産褥婦の問題点とその対応策についての話に、学校が出来ることは何か考えさせられた。

<大会第1日 全大会>

〔基調講演〕

20世紀最後の京都大会を成功させようと奮闘されていた大会実行委員長、京都性教育協議会理事長の今村要道氏が病に倒れ病氣療養中とのことで、基調講演は、副委員長の藤井昭氏が行った。

藤井氏は歯科医師であり、長年学校歯科医

として歯を通して子供たちに接してきた方である。興味深い内容に、永久歯の崩出時期・部位は年齢、身体的発育よりも精神的発育が多く関係をする事を認めざるを得ない結論を得た。恐らく「ホルモン」の分泌による影響だと思われる。「下顎第2大臼歯の崩出がないと初経は始まらない」この仮説に対して現在まで反対の意見を聞かない。という話があった。勉強不足で今までこのような仮説の存在を知らなかった。家庭で保護者がわが子の歯の崩出を確認することで、初経初来の時期をよりの確に予知できるのではないだろうか。多くの人に伝えたい内容であった。

〔記念講演〕

午後からは、リプロダクティブ・ヘルス/ライツからみた性教育と題しての、松本清一日本家族計画協会会長の講演があった。

1994年のカイロでの国連の国際人口開発会議での採択された行動計画の話から、思春期の人々に対する性教育として①自我を確立させ、自己尊重の責任能力を育てる教育、②望まない妊娠と性感染症を予防する教育、の2点が必要であると話された。また、思春期のリプロダクティブ・ヘルスの日本の現状からの問題点や今後のあり方などについて話され、大変有意義であった。

〔シンポジウム〕

「生命を考える」を主題に、福井美智代氏の座長、5名の演者によるシンポジウムが2時間半にわたって行われた。医師、精神科医、浄土宗住職、母親の会代表、助産婦の方がそれぞれの立場から提言された。フロアからも発言があり、それぞれに得た事が多い

一日であった。

<大会第2日 分科会>

下記の各分科会が開かれた。

- ・「総合的な学習の時間における性教育」
- ・「性の情報環境と対応」
- ・「月経・射精と性の自認」
- ・「逸脱する性の行動と性教育」
- ・「多様な性を考える」
- ・『性感染症「エイズを含む」と性教育』
- ・「性の相談活動」
- ・「障害のある人と性」
- ・「人生80年時代と性」
- ・「避妊の指導をめぐる諸問題」

参加した第1分科会では「総合的な学習の時間における性教育」のテーマで、最初に伊丹市立神津小学校の榎原厚子先生からの提案があった。「認め合い支えあう子をめざして」という研究主題から、5年生での総合的学習指導の実践を、多くの資料をもとにして発表された。地域に根ざした総合学習をめざしたとのお話に、深い実践の成果が児童のまどめの文章から読み取れた。

続いて、熊本県城南町立下益城城南中学校の大橋勇一先生の提案。「生きがいを見つけよう」のテーマで、1年では「こんな自分になりたい」、2年「こんなかわり方をしたい」、3年「こんな人生にしたい」と3年間を見据えた計画、実践報告であった。教え込みの性教育と総合的な学習での性教育とのリンクはどうしたらよいか等、課題も出されたが時間的な制約もあり、今後全面実施に向け実践、検証を繰り返す必要を感じた。

最後に、講師の神戸大学発達科学部教授石川哲也先生から、総合的な学習の時間に性教育を取り入れようとする場合、各学校は、地域や学校、児童の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習などの創意工夫を生かした教育活動を行

うようにする必要がある。さらに性教育の指導にあたっては、セルフエスティームを高めるとともに、知識の学習を基本としながらも知識を行動へと結びつけるスキルを身に付けるための学習形態・方法を取り入れる必要がある。というまとめのお話をいただき、職場に帰って何をどうしたらよいか、少し見えたような気がした。

<大会第3日 全大会>

特別講演は、千葉大学医学部解剖学第一講座教授 森千里先生の「内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の生殖器に及ぼす影響」。日本人の精子形成状態の経年的変化に関する疫学調査とヒト胎児内の内分泌攪乱物質の曝露量に関する疫学調査からのお話であった。何れにしても影響が現れてきているとのことであり、単に化学物質の環境汚染問題にとどまることのないように考えることが重要だと強く感じた。

最後は、理事長講演ということで、田能村祐麒先生のお話。学校の性教育に対する社会的期待とその対応のテーマで、人間尊重の精神の徹底、自己概念の確立と自尊感情の高揚、対人関係・男女関係の教育の充実、エイズを含む性感染症や性の問題行動への対応の4つの観点から1時間たっぷりの内容だった。最後に、1994年のカイロ会議にも触れ、青少年が自分の性について理解し、望まない妊娠・性感染症や不妊症になる危険から身を守るような視点からの学校の性教育の取り組みも重視されなければならないと結ばれた。

多方面からの研修ができた4日間。時期開催地は東京、この会場での”私もやらなければ”の思いを忘れずに、これからも研鑽を積んでいきたい。

第10回関東甲信越性教育研究大会報告

1. 研究大会

日 時 平成12年11月18日（土）

会 場 長野県医師会館

テーマ 平等と共生を礎とした人間性を育む性教育をいかに構築していくか

2. 講演

(1)新しいエイズ教育の展開……認知・行動科学的アプローチ

千葉大学名誉教授 武田 敏

(2)新学習指導要領で性教育をどう進めるか
全国性教育研究団体連絡協議会理事長

田能村 祐麒

3. 分科会

(1)第1分科会……総合的な学習の時間において性教育をどう進めるか

①総合的な学習と性教育（新横浜教育プランの性教育）

②総合的な学習における性教育（生き方を探究する総合の学習）

③総合的な学習の時間における性教育（ライフスキルトレーニングを通しての学習）

(2)第2分科会……生きる力を育てるために、男女の自己の性の自認をどう支援するか

①自己の性の自認をどう支援するか（セルフイメージを構成する4つの要素を通して）

②生きる力を育てるために、男女の自己の性の自認をどう支援するか（ひとりひとりの性徴のむかえ方から）

③自己の性を認め自他を大切にできる性教育（中学校3年間最後の性教育学習のまとめとして）

(3)第3分科会……豊かな男女の人間関係をどう育てるか

①性の発達段階の男女差について学ぶ（First Kissの動機）

②キスさせてと言われたら（特定の異性とのかわり）

③望ましい男女の人間関係をどう育てた

らよいか（グループカウンセリングを通して）

(4)第4分科会……性感染症・エイズ教育をどう進めるか

①ライフスキルを取り入れたエイズ学習（批判的思考スキルで視点を変える）

②性感染症・エイズ教育をどう進めたらよいか（みんなで学ぼう性とエイズのこと）

③性感染症・エイズ教育をどう進めたらよいか

(5)第5分科会……ハンディキャップのある人への性指導

①大学公開講座における知的障害者の性の学習（好きな人ができたら）

②聴覚障害者の性教育について（聴覚障害者の立場から）

③知的障害養護学校での性教育（そだちへの見通しをもった性教育をめざして）

(6)第6分科会……学校における性の相談活動をどのように展開するか

①学校における性の相談活動をどう展開するか

②幼児期のトラブルを話すことによって心を開いていったM子の事例

③学校における性の相談活動をどのように展開するか

(7)第7分科会……子ども世代と親世代の性教育・学校・家庭・地域保健との連携を考える

①思春期保健事業におけるピアカウンセリング（市として実践過程にどうかかわっていったか）

②おしゃべり会の活動（生と性の自立に向けて考える会）

③学校と地域保健の連携によるエイズ教育（市内全小学校で「エイズ予防教室」を実施して）

※分科会については発表演題のみ記載

第1分科会資料

総合的な学習の時間における性教育

”ライフスキルトレーニング”を通しての学習

榎 茂 喜

東京都立府中東高等学校

1. はじめに

新学習指導要領により、新しく『総合的な学習の時間』が設けられることが決まった。この『総合的な学習の時間』は、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの生きる力を育むために創設されたものである。

また『性教育』は、自己の性を認識し、豊かな人間関係を築く中で直面する性の諸問題を適切に判断し、対処する能力や資質を育てることを一つの目的としている。そのため、「総合的な学習の時間」は性に関する学習を深く、統合的に行うには適している。特に、性教育の重要課題である、自己の在り方・生き方についてを考察する学習活動に関して、この「総合的な学習の時間」により、横断的・総合的に扱われることが、学習の成果を高めるために必要であると考ええる。

2. 性教育の目標との指導の重点

高等学校では『性教育』の目標として以下の3点があげられる。

- (1) 男または女としての自己認識を確かにさせるとともに、異性に対する認識を深めさせる。
- (2) 人間尊重の精神に基づいて男女の人間関係を築くことができるようにする。
- (3) 家庭や社会の一員として生きていくうえで必要な人間の性に関する基礎的・基本的な事項を習得させ、現在及び将来の生活において、性にかかわる諸問題に対して、適切な意志決定ができるようにする。

そこで、これらの目標にそって、「総合的な学習の時間」で学習を展開する場合においては、以下の項目についての指導が欠かせないと考ええる。

- (1) 教科・科目や特別活動での学習をふまえ、総合的に性に関する学習を行うことにより、生徒自身の性に対する意識を高め、考え方や意志決定について学ばせる。
- (2) 人間の性について調べることにより、人間だけが持つ性に関する問題点を考えさせる。また人と人との関わりや人権についても考えを深めさせる。

- (3) 社会の一員としてのライフスキルを身に付けるためのトレーニングを行い、生きる力を育む。
- (4) 心身ともに健康であることについて考え、生徒一人一人が実践する態度を育む。
- (5) 視聴覚教材や資料の活用や、調査・実験観察および見学などの活動を行うことを通して、情報収集や情報処理などの情報活用能力を養う。
- (6) 探究を中心とした学習では、個人やグループにおいて、討論や活動が円滑におこなえるよう、助言及び指導を行う。また、ロールプレイやディベート等の方法を用いる場合は、その学習法を学ばせておく。

3. 学習指導計画

現行および新学習指導要領いずれにおいても『性教育』の記述はないが、総則・教科・特別活動等の記述には性教育に関連する事項がある。また教科においては特に、公民科・地歴科・理科・保健体育科・家庭科を中心として、性に関する内容が扱われている。しかし、多くの学校ではどちらかといえば、内容を断片的に取り上げ、一方的に知識や授業内容を教えるなどの画一的な知識偏重の授業が行われ、自分の興味・関心から自ら学習することはあまりなかった。今後とも教科・科目や特別活動でも扱うことには違いがないが、今回の改正により導入された『総合的な学習の時間』で展開することで、総合的・横断的に性教育を扱い、学習をより効果的に行うことができると考えた。そこで、試みとしてライフスキルトレーニングを取り入れた学習指導計画を作成し、授業実践を行った。

4. おわりに

最近の生徒の傾向として、「自分自身で考えることをしない」「他の人の意見を聞くことができない」「他の人と上手くコミュニケーションをとることができない」などの問題点がみうけられることが多くなってきている。これらの問題点を解決するためには、教科・科目の授業と異なり、自由に学習内容を構成できる『総合的な学習の時間』が有効であると考え、そのなかでこれらの『生きる力』の育成に結びつくようなライフスキルトレーニングを行うことは大切であると思われる。

性教育に関しては、生徒の興味・関心は高く、学習意欲も普段の理科の学習内容と比較して高い。また、生徒にとってグループによる話し合いや発表が中心の授業は、あまり経験したことがなく、またシナリオ作成やロールプレイなどは授業形式としてはなじみがないものである。そのため、最初は多くの生徒に戸惑いがみられたが、授業を進めるにつれて、活発な討議がみられるようになった。また、生徒自身も考えることや、他の人と話し合うことの楽しさを理解している様子であった。このような学習を繰り返すことにより、生徒にとって、性教育の内容の理解だけでなく、ライフスキルの育成に十分な効果を及ぼすと考え、このことは、豊かな人間性を育むことに直接的に結びつくと考え。

『総合的な学習の時間における性教育』

東京都立府中東高等学校

教諭 榎 茂 喜

1. 総合的な学習の時間の展開

(1) 学習形態として

- ・一斉指導学習
- ・グループ学習
- ・調査研究（調べ学習）
- ・見学・訪問
- ・講演会

2. ライフスキルの育成と性教育

(1) ライフスキルとは

WHOでは、「日々の生活における要求や対応において効果的に対処できような、適切で積極的な行動をするための能力」と定義している。

(2) ライフスキルの種類

- ・意志決定スキル
- ・問題解決スキル
- ・創造的思考
- ・クリティカル的思考
- ・効果的なコミュニケーションスキル
- ・対人関係スキル
- ・自己認識
- ・共感性
- ・情緒対処スキル
- ・ストレス対処スキル

(3) ライフスキルと教育

主としてグループワークによる集団指導であり、グループワークの内容としては、

- ・ブレインストーミング
- ・ロールプレイ
- ・ケーススタディ
- ・ディスカッション
- ・ディベート
- ・モデリング
- ・ゲーム

などがある。

(4) ライフスキル教育の展開方法例

- ・ステップ1……オリエンテーション（目的の説明）
- ・ステップ1……グルーピング（班分け）
- ・ステップ1……アイスブレイキング（緊張ほぐし）
- ・ステップ1……レクチャー（内容や方法の説明）
- ・ステップ1……グループワーク（上の(3)の作業）
- ・ステップ1……全体発表
- ・ステップ1……シェアリング（わかちあい・ふりかえり）
- ・ステップ1……まとめ

3. 総合的な学習の時間における指導計画例

(1) 指導計画

① 心を知ろう

A. 性に関する関心

- 思春期の心……………（1時間）一斉学習・資料の利用
- 性に関する問題点……………（3時間）ビデオ教材・グループワーク

B. 男女の人間関係

- 意志決定をしよう……………（1時間）ワークシートによる個別学習
- 性行動における選択……………（1時間）ディベート
- 自分が考える男性像・女性像…（1時間）絵画表現・グループワーク
- 男女の関わりを考えよう……………（1時間）グループワーク・ロールプレイ

C. 家庭や社会における人間関係

- 家族ってなんだろう……………（2時間）シナリオ作成・ロールプレイ

② 体を知ろう

A. 身体の発達

- 男の体・女の体……………（1時間）資料の利用・一斉学習
- ホルモンと性の成熟……………（1/2時間）一斉学習
- 脳と神経……………（1/2時間）一斉学習

B. 人間のライフサイクル

- 妊娠と発生……………（2時間）ビデオ教材・調査
- 性と遺伝……………（2時間）実験観察・一斉学習

C. 健康な体

- 薬物の影響……………（1時間）資料の利用・ビデオ教材
- 性感染症……………（1時間）一斉学習・ビデオ教材
- 避妊と中絶……………（2時間）ビデオ教材・ディベート

(2) スキルトレーニングを含む主な展開例

小 単 元	主な学習形態	生 徒 の 活 動	指導上の留意点および備考
思春期	ブレインストーミング 一斉学習	自分自身の性に関する考えを関連事項の質問を通して次々とあげていく 思春期とはどういうものかを考え、それに伴う体や心の変化を考える	生徒の自由な発想を重視する 興味本位にならないように注意しながら、性（生殖・性行動）の持つ意味を十分に理解させる
性に関する問題点	資料学習	事例学習	資料等を有効に活用し身近な問題としてとらえさせる
	ビデオ教材を用いた個別作業学習 グループ討議	動物の相手を獲得するための戦略について、オス・メスの両面から考える グループ討議を行い、人間と動物の生殖の違いを考える 人間だけが持つ特徴や問題点について考察する	ワークシートに記入させながら自分や他人の考えをまとめていく グループ学習においてはシェアリングやディスカッションに重点を置き、指導助言を行う
意思決定	ワークシートによる個別作業学習	フローチャートを用いて幾つかの意思決定の場面について考え方を学習する	意思決定における行動や思考の流れに気付かせる 意思決定を行う場面や状況については教師から与える 簡単なものから複雑なものへと繰り返し学習をし、定着を図る
行動選択	ディベート	ディベートの方法を学習する 性に関する行動選択についてのディベートを「賛成」「反対」「聴衆」の3つのグループに分けて行う	行動選択を行う場面や状況については教師から与える 自分の意見をまとめ、他人の意見を聞いて、総合的に判断できるようにする

小 単 元	主な学習 形態	生 徒 の 活 動	指導上の留意点および備考
男女の認識	ワークシートによる個別作業学習 グループ学習	「男性像・女性像」を絵に表す 身体的特徴以外の違いについて考え、討論し、考えをまとめる	ワークシートに記入させながら男女の相違点・共通点を考え、自分の性について考える
男女関係	グループ学習	男女がうまく付き合うためには何が必要であるのかを他のグループの意見を参考にしながら考えをまとめる	討論や自分の考えをまとめることに重点をおく
家族	シナリオ作成 グループ学習 ロールプレイ グループ学習	両親の会話についてのシナリオを考える 他の人のシナリオを聞いて考えを発展させる シナリオを演ずる 家族について考えをグループごとにまとめる	テーマや場面設定については教師のほうから与える シナリオを演じることにより考えを共感する 家族や人間関係についての意識や意見を持たせる
妊娠出産	ビデオ教材を用いた個別作業学習 体験 グループ学習	ヒトの受精や妊娠・胎児の成長について理解する 母体体験シュミレーターを着ていろいろな動作を試みる	ワークシートに記入させながら資料や情報の整理やまとめをおこなう 体験をとおして、妊婦さんの行動や気持ちを理解する
コンドームネゴシエイト	ロールプレイ	性交時におけるコンドームの使用について考える	客観的に判断する能力や、交渉術をグループワークやロールプレイからつける

ライフスキルトレーニングを含む活動における生徒の自己評価

意志決定

	とてもよく できた	できた	あまりよく できな かった	まったく できな かった	できた以上 の割合	平均理解度
意志決定の流れは、理解 することができたか	9	16	1	0	96%	77
自分の考えを論理的にまと めることができたか	8	14	4	0	85%	72
他の人と話し合ったり、意 見を出し合うことができた	12	12	2	0	92%	79
他の人の意見に対して冷静 に反対意見を出せたか	10	14	2	0	92%	77
資料や他の人の意見を参 考にすることができたか	14	10	2	0	92%	82

家族

	とてもよく できた	できた	あまりよく できな かった	まったく できな かった	できた以上 の割合	平均理解度
シナリオをきちんと作ること ができたか	15	6	2	1	88%	82
自分の考えを論理的にまと めることができたか	11	8	5	0	79%	75
他の人と話し合ったり、意 見を出し合うことができた	16	7	1	0	96%	88
他の人の発表をきちんと聞 いてまとめることができた	14	8	2	0	92%	83

動物とヒト

	とてもよく できた	できた	あまりよく できな かった	まったく できな かった	できた以上 の割合	平均理解度
ビデオを見て内容をまとめ たり整理することができた	17	6	0	0	100%	91
他の人と話し合ったり、意 見を出し合うことができた	11	9	3	0	87%	78
他の人の意見をきちんと聞 いてまとめることができた	14	8	1	0	96%	86

男の子・女の子

	とてもよく できた	できた	あまりよく できな かった	まったく できな かった	できた以上 の割合	平均理解度
自分の考えを表現すること ができたか	15	6	2	0	91%	86
他の人の意見を聞くことが できたか	16	6	1	0	96%	88
他の人と話し合ったり、意 見を出し合うことができた	14	8	1	0	96%	86

受精・出産

	とてもよく できた	できた	あまりよく できな かった	まったく できな かった	できた以上 の割合	平均理解度
ビデオや資料の内容をまと めたり整理することができ	8	8	3	0	84%	75
妊婦さんの立場になり、行 動や気持ちを理解できたか	8	9	2	0	89%	77

意志決定について (26人)

- ・他の人の考えが、わかっておもしろかった。例をあげて、それについて、考えているとたくさんの意見が見つかった。性についていろいろ考えなければならぬのかなー、と実感した。
- ・今日のは、とてもおもしろかった。人の意見を聞く事ができて、結こうおもしろかった。思っていたより、みんな似たような考えを持っている。その辺はちょっとおもしろくないかな。原っぱみたいにおっとんだ意見がもっとほしかった。
- ・答えがないから、すごく難しく感じた。でも、こういう機会がないとみんなの意見を聞けなかったろうから、おもしろかった。
- ・自分が結論を出すまでには、他の人の意見や、資料などをよく見て、そうすることにより、新しい発見や、反論などを取り入れ、それを何回も重ねることにより、本当の自分の考えが分かってくるのだということが理解できてよかった。
- ・いつもあまり考えないことを新めて考えてみて、自分の気持ちがはっきりした。先のことをよく考えて、後悔しないように行動したいと思いました。
- ・普段、あまりこういうことを深く考えたりしないから、自分の考えをよく出せた。
- ・ためになりました。愛とは何か、真剣に考えることができてよかった。いつも、こうゆう授業がいいです。高校生の私達には、とても勉強になります。
- ・みんなの考えてることがよくわかった。それぞれの意見があるんだなと思った。意見こうかたのしかった。
- ・最後の方のシャッフルして、相手のいけんをきくやつがすごくよかった。でも「愛」とは？とかいつも考えないことを考えるとすごくずかしかった。
- ・苦労した。けど、いろんな人の意見をきけて、けっこう楽しかった。
- ・普段生活しながら考えない事とか、体験したことない状況に自分をおいてみて考えたりとかして、面白かったし、考えが深まってよかった。
- ・みんなの意見がきけて、参考になった。自分が成長したと思う。
- ・身近なことだけどふだんあまり考えないような事で、ちょっと大変だったけど、いろいろ自分なりに考えて、他の方向からも少し見て考えられるようなコトもあった。
- ・とても悩むことが多かったです。普段考えられないことだから、考えさせられることが多かった。今日授業でやった状況におかれて、冷静に考えることができれば、授業をやった意味があると思う。

男性、女性について (24人)

- ・ふだんは気にしない事だけど、よく考える、難しいことでした。
- ・楽しかった。
- ・人生についてよくわかった。
- ・精については、けっこうむずかしい。男女については、よくわからない。
- ・普通の授業よりも全然たのしかった。
- ・楽しかった。いろんな人の考えを知る事ができたし、ためになった。また、こういう機会をもうけてほしい。
- ・いつもと違って楽しくできた。
- ・人の意見をたくさんきけたので楽しい授業だった。
- ・色々な人の意見を聞くことができ良かった。
- ・みんなと話しがはずんで楽しかった。男と女についていろいろ考えるイイ機会だったと思う。
- ・おもしろかった。自分の考えや人の考えを出し合うことは良いことだと思った。今日で心が少し成長した。
- ・ひさしぶりにたのしかった。みんなのかんがえがすこしわかった。
- ・男と女について、考えさせられた2時間だった。
- ・楽しかった。やっぱり女の子同士だとほとんど意見が同じだった。これで少しは成長したかな？
- ・良く考えられて良かった。
- ・とっても楽しかった！！小学生の授業みたいだった。自分の考えをきいてもらえたし、みんなの意見もきけて、さんこうになった。ずっとこんな授業だったらいいな。
- ・ふだん、男の人と女の人の違いとかを考えたりしないから、とても難しかった。
- ・異性から見た女のイメージとかが、実際の女性の実体とはずいぶん異なっていると思った。ふだん、そんなことを聞くことはないから、いい機会だったと思う。
- ・おもしろかった。人の意見を聞くのはよいことだと思いました。
- ・(2)の方がとても難しかった。体の違いでなく、精神的な違いだからだ。
- ・うーんなんか、難しいねえー。
- ・男と女はむずかしい。
- ・実験室でやる意味がない。

家族について (27人)

- ・とても難しい課題だった。家族、愛とは何か改めて考えさせられた。でもまだ親の気持ちはいまいちよくわからない。
- ・シナリオ作りが難しかった。実際自分がそうなったらどうなるのか、少しこわくなった。理想の家族像ってみんなだいたいあるけど、それに近づける家族は極少数だと思う。
- ・ちょっと難しい所も合ったけれど、けっこうなんとなく想像できる場面だったのでまあみんなで考えられた。楽しくできた。
- ・親の気持ちなんて考えたことなかったから、むずかしかった。
- ・シナリオつくんのがたのしかった。
- ・難しい。親だったら何とも言えない気持ち。
- ・今までで一番難しかった。シナリオ考えるのがとても大変で苦労した。
- ・すごく考えることが多かった。現実的なことを考えさせられたと思う。
- ・今日はたくさん頭を使ったのでつかれた。
- ・先週よりもとてもむずかしかった。シナリオもわけがわかんなくなったし、あたりまえのように家族とくらしているが、自分たちがこのような状況になったらどうなるのだろうと思った。
- ・今回は親の立場でむずかしかった。多分、その時にならないと分からないことだと思った。
- ・今日やったシナリオは、今の自分たちと同じくらいの年だったから、友達とかの話を聞いているみたいだった。自分たちが考えてたけど、親がその場に立たされたら、気が動転して、頭の中がごちゃごちゃだから、何言ってるかわかんないだろうし、自分たちもきっと、正気じゃいられないと思った。
- ・けっこうたのしかったし、前でやったのがおもしろかった。
- ・けっこうむずかしかった。けどおもしろかったです。家族について、かんがえたのは初だった気がする。
- ・最初はシナリオはめんどくさいと思ったけど、実際やってみたらけっこうたのしかった。
- ・楽しかった。いつもこういう授業がいい。がんばりました。
- ・家族ということを知った。やっぱり両おやいたほうが得なのかね？
- ・発表とか、むずかしいが、他は、たのしかった。
- ・家族にとって話し合いは大切だ。
- ・家族は大切にしなきゃならないなあーと思った。

動物とヒトの違いについて (27人)

- ・動物と人間の性交行動について真剣に考えることができた。
- ・楽しかった。いろいろ考えたりできたので、ためになりました。動物のビデオ楽しかった。動物についていろいろ知れてよかった。
- ・ビデオが楽しかった。これからもビデオ見たい。
- ・人間と動物の、性交行動の違いが、よくわかった気がする。
- ・ビデオがとくにおもしろかった。人間と動物はけっこう違う事にビックリした。
- ・動物によって、子孫を残す方法がちがうからおもしろかった。
- ・動物のことが知れた上に、人についても考えることができたと思う。
- ・動物たちの子孫を残すためのそうぜつな戦いにくらべて人間は愛し合った人同士の愛の結晶ともいわれる子孫を残せるから幸せだなと思いました。
- ・人と動物のちがいがわかった。
- ・動物の事がよくわかった。オスの方が積極的。
- ・子孫を残すということは大変なことだと思った。
- ・ヒトについて、動物の一種として考えてみて、妙な感じになった。なんでヒトにだけはこんなに便利な脳があって、本能で生きてないのか不思議に思った。
- ・いろいろな動物、それぞれ違った子孫の残し方があるという事がわかった。ヒトと動物は全然違う。
- ・動物に生まれなくてよかったと実感した。ヒトに産れて、人を愛することができコトを幸せに思えた。
- ・いろんな動物でそれぞれ相手のハートを射とめるアピール方法や生殖方法が違うことを学べた。
- ・いろいろな動物のいろいろな交尾の方法が見られて驚いたし楽しかった。ライオンは冷酷だと思った。ライオンにもいろいろあるんだろうけど。
- ・今日は、結構おもしろかった。
- ・オス対メス…利益関係対立
オス対オス…メス獲得のため
自己の子孫を残すため、すごい戦いをしていて、ライオンは、なんかむごいと思った。
- ・ヒトと、動物の性交行動の違いや、色々な動物の性交行動を知った。動物は、子孫を残す為に必死なんだなあと思った。
- ・動物と人間との性の考え方や、行動などの違いがわかった。
- ・動物と人間の違いを確認できた。

受精、出産について (21人)

- ・妊婦さんになれて良かったです。
- ・改めて、妊娠は大変そうだなあと思った。
- ・にんぶさんの気持ちになれてうれしかった。
- ・にんぶさんのシュミレーターをきてたのしかった。
- ・ヒトの体のしくみというのは本当に良くできている。女の人は何ものすごく大変。
- ・人の神秘にふれた。
- ・すごく勉強になった。
- ・今日は、妊婦のシュミレーターをやってみた。見てるときにも大変だと思っていたが、実際体験すると本当に大変だった。
- ・妊婦さんの思いが本当に少しだけ分かれてよかった。本当に妊娠したら、半年くらいずっと毎日あんな思いををすると思うと大変だという事がわかった。
- ・以外と妊娠すると大変だということがわかった。はらが、とくにおもいし、とりあえず下が見えなかった。
- ・そこらへんにたくさんいる妊婦さんをもっと思いやろうと思った。
- ・貴重な体験ができてよかった。
- ・とても腰がいたかった。
- ・妊婦さんの気持ちがよくわかった。これを約8～10か月もやるのはそうとうきついと思う。
- ・妊婦さんは大変だと思った。
- ・妊娠や出産は大変だと思った。産むのも大変だけど、産むまでの間も体力的につらいと思った。
- ・本当の妊婦になるのはいつの事だかわからないけど、いまのうちに体力をつけておかないとつらいと思った。

【緒 論】

「学校における性教育の考え方、進め方」(児童生徒の年3月31日、文部省)によると「児童生徒等の性意識や性行動は、生まれ育った家庭の在り方、家族の関係、保護者の価値観や生き方、保護者の育て方やしつけ及び考え方などが大きく影響している」としている。このため、学校における性教育を進めていくうえで保護者の意識を把握することは、非常に重要であると考えることができる。

加えて、(前掲載)によると、性教育を進めていくうえでの留意点として、

- ①教育的な価値が得られるものであること
- ②児童生徒の発達段階に即したものであること
- ③社会的なコンセンサスが得られるものであること

をあげている。

社会的コンセンサス、すなわち、児童生徒を取り巻く教育環境(学校・家庭・地域社会)において総意を得た指導内容でなければならない。これは、学校と家庭の教育を例にとると、指導内容が一致したものでないと児童生徒が戸惑うことになると考えられる。

また、第15期中央教育審議会答申によって、「家庭の教育力低下」が指摘されている。これは、多様化する社会のなかで、核家族化や少子化が進み保護者の教育に対する意識も多様化している。その結果、児童生徒の発達課題として、社会性の不足、倫理観の欠如、自立の遅れなど危惧される方向へ進んでいる。このため、学校は、保護者と教師、保護者同士の「話し合いの場」を提供し、誰もが共通する児童生徒の発達課題について解決していく一体的な取組が重要と考える。

これらの取り組みが保護者の養育態度の変容にもつながると考えられる。

以上のことを要約すると、

- ①児童生徒の性意識や性行動に保護者の知識や意識が影響すること
- ②指導内容は、学校と家庭とが共通理解を図るうえでも社会的なコンセンサスを得たものでなければならない
- ③性教育について、保護者との連携を図ることが、家庭における保護者の養育態度の変容につながる

と考えられる。これらのことから、本研究においては、保護者の性や性教育についての意識等を明らかにすることを目的とした。

【方 法】

調査対象は、神奈川県横浜市内小学校1校に通う児童の保護者313名。調査は、質問紙法により、1999年6月下旬から7月上旬にかけて実施した。

質問紙の内容は、

- ①保護者及び子どもの性別、人数、年齢など
- ②小学校における性教育の副読本等のなかから、題材名及び指導のねらいについて示し「とても必要である～全く不要」の7件法を用いての質問
- ③国立婦人教育会館が作成した「男女の性的役割分業意識」についての質問紙を7件法に改訂
- ④性についての会話の内容
- ⑤現在及び将来にわたる性に関する不安や悩み
- ⑥性に関する情報源
- ⑦Vチップの導入について質問した。

質問紙の集計及び分析には、SPSS9.0for Windows を使用した。

【結果及び考察】

- 1 保護者が望む小学校における性教育の内容についての検討

性教育の指導内容と指導のねらいについて7件法にて質問し、得られた回答を「7～1」点に得点化し、平均点を降順に並べた。その結果、上位に位置した項目は、①さそいにのらない(6.4441)、②みんななかよく(6.4153)、③からだをきれいに(6.1661)、④わたしたちのからだの成長と変化(6.0799)、⑤月経のしくみと処理(6.0767)などであり、身のまわりの安全、周囲の児童との良好な関係、身体の清潔など、日常の生活において保護者が紀を配っている項目に次いで、第二次成長への対応も上位であった。

2 指導内容の主成分分析による「保護者の性教育イメージ尺度」の検討

「保護者の性教育イメージ尺度」として因子構造を検討するため、30項目の質問項目について、主成分分析による因子負荷行列を求めた。次に、因子をより解釈するため、バリマックス回転を実施し、寄与率、固有率を傾倒したところ、解釈可能な6成分を抽出した。

第1成分(因子寄与率26.326 α 係数0.9684)は、生命誕生、心の発達、エイズを知ろうなどであった。これは、主として小学校高学年の指導内容であるが、保護者の観点を踏まえて、第一成分を「小学校で身につけさせたい行動・知識」と命名した。

第2成分(因子寄与率14.284 α 係数0.9286)は、せいしとらんしのしくみ、わたしのいのち、赤ちゃんが生まれるなどであった。これは、生命の尊重などについて理解させることを指導目的としている項目であるため、第2成分を「命の大切さ」と命名した。

第3成分(因子寄与率13.543 α 係数0.9286)は、たすけ合う家族、家族と家庭、私の誕生などであった。これは、両親の愛情によって児童が生きているという項目や家庭の大切さなどを指導目的としていると思われる項目であるために、「伝えたい親の愛と家族の大切さ」と命名した。

第4成分(因子寄与率10.414 α 係数0.8653)は、テレビとわたし、テレビ・マンガとわたしたち、たねとりと球根うえなどであった。これは、指導を実施する上で他教科及び特別活動との連携がより効果を望める項目であるために「総合的な学習としての教材」と命名した。

第5成分(因子寄与率9.945 α 係数0.313)は、自分のものをつかう、さそいにのらない、からだをきれいにであった。これは、 α 係数による内的整合性の検討をも視点に入れると、低学年における指導内容を同一視的に捉えたものであると考えられるため、「性教育の基礎・基本」と命名した。

3 性の諸問題に対する不安や悩みについて
本検討を実施する以前に、自由記述により「性の諸問題について現在及び未来の不安や悩み」について質問した。次に、得られた回答を設問し、「とても不安である(とてもそう思う)～全く不安でない(全くそう思わない)」の5件法にて質問した。回答は、5～1点に得点化し、平均値を降順に並べ替え、不安な悩みの大きい項目について検討した。

①子どもをターゲットにした性的イタズラ(4.55)、②女子高生等の援助交際(4.36)、③社会全体の性モラルの低下(4.06)、④性的描写のある雑誌の氾濫(4.02)、⑤若年齢でんろ妊娠(3.96)などがあげられた。これらの問題は、社会全体としての性に関する課題として集約される。

また、性教育における学校との連携体制(3.4153)や親が性教育を勉強する機会の少なさ(3.36)も上位に位置し、学校においてはさらに連携を蜜にする必要性、社会においては、保健所などの協力を得た保護者の性教育を勉強する機会の充実などを示唆する結果であった。

4 「Vチップ導入」についての検討

3の性教育の課題のなかに、性情報への不安があげられた。これは、調査以前よりあ

る程度予想されたために、「規制して欲しいと思う、または規制して欲しくない情報について」を5件法にて質問し、5～1点に得点化したものを降順に並べ替えた。結果は、①レイプを含むストーリー(4.33)、②セックスを含むシーン(4.00)、③ペッティングを含むストーリー(3.57)、④男尊女卑的なストーリー(3.29)、⑤中絶を含むストーリー(3.19)、⑥離婚を含むストーリー(2.64)、⑦キスシーンを含むストーリー(2.54)⑧出産シーンを含むストーリー(2.35)、⑨恋愛シーンを含むストーリー(2.28)であった。平均値の検討であるが、レイプやセックスシーンを含むストーリーについては、強い規制が望まれると考察した。逆に、恋愛に関することや生命の誕生である出産のシーンについては、規制する意識は低かった。また、男尊女卑的なシーンを含むストーリーについてであるが、レイプ、セックス、ペッティングに次ぐ項目に位置するために、男女の性的役割分業意識についても検討していく必要があると考察した。

5 保護者と児童との家庭における性に関する会話について

家庭における性に関する会話について質問した。

①生命の大切さについて会話すると回答した保護者は(91.7%)、②男女平等については(49.3%)、③恋愛については(49.3%)、④初潮・精通については(43.7%)、⑤エイズについては(30.5%)、⑥性情報への対処については(13.7%)、⑦性交については(13.7%)であった。保護者の性に関する会話の内容については、重要な題材について子どもとの会話がなされている。その反面、例えば、保護者として話しにくい題材については、会話がなされていない現状を示唆するものであり、学校からの連携の方法を進める場合、保護者が話しにくいと思う反面、必要であると思う題材については、学校において指導していくことが必要

であると考察した。加えて、保護者の与える情報に大して、学校も十分把握できるように学校懇談会や学校保健だよりなどを通じての意見交換が重要であると考えられる。

【本研究のまとめ】

結果及び考察の順序に従って、本研究をまとめとする。

1 性教育において保護者が必要と考える題材名

現代の性教育の論点でもある「性交の指導」を含めて、性教育の指導内容についてどのような内容を期待するかを質問した。前述の通り指導内容は、保護者のコンセンサスを得たものであることが望ましいとの理由からである。上位項目に着目すると、性教育の基礎的・基本的な内容についての期待が大きいことが分かった。これは、「性交指導」の必要性に疑問視する結果になり得ると考えられる。また、性教育の目標である「生命尊重」「人間尊重」「男女平等」について保護者も期待していると考えられることができる。

2 指導内容の因子分析的検討

次に、指導内容について因子分析検討を実施した。因子分析は、従来通り背景要因の検討ということができる。背景要因、すなわち、本検討においては、保護者が性教育の必要性を考える上でどのようなイメージを持って回答したかを示すものである。このことから、分析結果に着目すると、保護者の性教育のイメージは、前述のような構成項目から成り立つと考えることができる。しかしながら、本分析結果から得られる課題として、性教育の基礎的・基本的な内容が、性教育の基礎的・基本的な内容と別に位置付けられた。これは、身の周りを清潔にすることや周囲の友達との良好な関係を築くなどは重要であるが、性教育の内容として捉えられていないことが理解できる。性教育の基礎的・基本的な内容は、その指導内容の基盤になりうる重要性を持っているため、本検討についての十分な啓発が必要

と考えられる。

3 性の諸問題に対する不安や悩みについて

保護者との連携を進めていく上で、保護者の性や性教育についての不安や悩みを把握する必要性が考えられた。特筆すべき点は、自身の子どもの問題よりも社会全体の対応が待たれる諸問題（援助交際など）について危惧された。また、学校との連絡体制、親が勉強する機会の少なさなど保護者が学校との連携体制の確立を望んでいることも明らかになった。

4 Vチップの導入について

現代の性に関する諸問題にもあげられたように、性情報への対処は、危惧される問題のひとつでもある。本検討においてもレイプやセックスのシーンを含むストーリーについては、強い規制が望まれる。これは、児童生徒の意思決定の育成とは別に、社会全体として取り組むべき課題であると考えた。

5 家庭内の性に関する会話について

保護者が児童と会話する内容について質問し、その特徴を把握しようとした。性に関する会話の特徴として、必要だから話す内容、話しやすいから話す内容が話されていることが明らかになった。しかし、必要であるが、話にくい内容については、家庭において話されていないと考えることができ、この内容についての指導が果たすべき役割を示唆すると考えられる。

【保護者と連携した学校における性教育の指針】

本研究は、

- ①児童生徒の性意識や性行動が保護者の影響を受けること
- ②性教育の指導内容は、社会的なコンセンサスを得たものであるべきである
- ③保護者との連携が家庭における養育態度の変容に繋がる

という観点から、身体的にも精神的にも大きく発達をとげる小学生の保護者へ性や性教育

についての意識調査を実施した。

本検討は、保護者の意識の把握を目的としていたが、この保護者の意識をカリキュラムに生かしていくことが非常に重要であると考えた。カリキュラム・すなわち、本検討においては指導計画を意味するが、保護者の啓発を含めて、誰が何を担当し、どのように指導していくかを決定する必要がある。例えば、保護者の意識では、性教育の基礎的・基本的な内容は、性教育としての位置付けが薄いために、指導計画において、より具体的な単元ごと、教材ごとの目標などを立て、指導指針を明確にすることが保護者の理解を得るうえでも重要と考えられる。

また、保護者は、学校との連携を明確に望んでいることや「開かれた学校」の観点からも学校が保護者の性や性教育について共通理解を図る場である。これは、子どもの発達段階について共通の悩みを持つ保護者同士が話し合う場として、また、教師と保護者が話し合う場を提供する必要があると考えた。

最後に、近年、諸外国においては、ヘルスプロモETING・スクールという考え方が徐々に広まりつつある。しかし、わが国においては、もともと存在した理念であったために今後は、諸外国の問題点などとも比較し、検討していくことで諸外国への情報提供も可能になり得ると考えられる。

私の性教育－東京から北九州へ－

九州国際大学付属高等学校

教諭 宮原 万亀

東京からこの北九州へ住居を移して丸三年が過ぎた。

昨年の「あふるる（第2号）」にも、『福岡県における性に関する概要』と称して投稿をさせていただいた。その中にも触れたが、こちらへ来て早々から、福岡県性教育研究会主催の夏季セミナーでの実践発表に始まり、市内で催される「性に関する講座」の講師を又、県内の「教職員性教育研修会」の講師依頼をいただくなど、学校職務と並行して多忙な日々を充実した思いで過ごしている。

又、本校は昨年度(平成12年度)から、中等部を新設し、中・高6か年一貫教育をスタートさせた学校で、現在キャンパスには、第一期生である中学1年生のフレッシュな活気が充ち溢れている。その初年度である昨年、教育講話の一環として、生徒対象、保護者対象のそれぞれに『性教育講話』の機会をもち保護者の方々からも好評をいただいた。

これら様々な場に“お声”をかけていただき又、場を務めさせていただけるのは、私の(東京での)勤務校であった吉祥女子中学高等学校が性教育において全国的に先進校であったお陰が大きいものと感じている。

前任校での17年間、私は先達方が創られた、しっかりとした土台の上で伸び伸びと性教育を展開することができた。又、これから性教育を始めたいが…と訪問して下さる学校には、先進校として誠意をもってアドバイスをさせていただいた。

保護者の方々へも保護者会等で、「本校の性教育」を紹介するなど、私は性教育委員長としてできる限りを尽くしたように思う。

最後の5年間程は毎年性教育委員会で、教職員の性教育に関する研究や実践をまとめた『性教育委員会集録』を発行するとともに、私の退任の年が前任校の「性教育発足三十周年」という年節目の年にあたり、記念誌『吉祥の性教育三十周年誌』を集録するという大任を務めさせていただいた。

私は前任校の「性教育の趣旨」と、理事長：清水八郎先生の著述『本校の性教育－ふかく人間の生を愛せ』がとても好きであった。

「吉祥性教育の趣旨とは、生徒に性の基礎知識を学ばせ、性に関する生き方において、主体的に判断し決定する能力を育成する」であり又、「吉祥性教育の初志とは、人間を深く愛することであり、人間の生を愛することであり、科学をその手段とする」であった。

授業を行う際や、講話の場に立たせていただく際に、私の話の根底には常にそれらがあったように思える。

子供の問題行動に、“キレル”・“ムカツク”などが聞かれてもう久しいが、それらも「性」を学ぶことで、自分の命の大切さや生きていることのすばらしさを実感できるとともに、同じ(大切な)命をもつ他の人を思いやる心も生まれるのでは…と思っている。

性教育を充実させるためには、学校と家庭と地域の関係が大切であり、その各学校にも、各家庭にも、そしてそれぞれの地域の状況によっても、行う性教育の内容は変わってくるものと思う。そして最も配慮すべきことは、「性教育を受ける子供達の家庭環境や心身の発達段階には皆個人差がある」ということだと思っている。

現勤務校もそうであるように、この福岡県では中・高6か年一貫教育校が増えている。

私は性教育関係の研修会や実践発表の中に、前任校での性教育実践を例として示すことがある。以下には、中学・高校6か年一貫教育における教科授業型の性教育実践例を概略で示してみた。

教科名	理 科		社 会・地 理・公 民		家 庭		保 健		その他
	教科目標	時間数	時間数	時間数	時間数	時間数	時間数	時間数	
中1	○「生命の連続」という科学現象として「性」をとらえる。	10	○社会的な場面における性対象として、性差と性差別についての理解を深める。 ○性差別の歴史と現状、さらに性解放について考える。	2	○現代の家族は多様化している。人と家族の間わり、家族をとりまく問題を考える。 ○人間的な主権の生き方を考える。 ○人間と親戚の関わりを調べる。	2	○性に関する生き方において、主体的選択をするための基礎知識を学ぶ。(性=生) ○性に関するさまざまなことを、自分の存在の他大さ、生命の大切さを認識する。	2	行事(対象) 「本校の性教育」講演会
	1 植物の生活と繁殖 (果実や種子の働き、胎子の観察)								授業参観
	2								
中2	動物の受精・細胞分裂	10							公開授業
	1 生殖(無性生殖と有性生殖、減数分裂、生殖細胞の形成と受精)	8							
	2 発生(発生の過程、発生のおくみ「ウニ・カエル」)	8							
中3	ウニとカエルの発生観察(実験)	6	日本国憲法と人権 性差と性差別 性差における性差別 表現の自由と性	4	人間の成長と心身の発達 家族と子ども—家族と社会 子どもたちの法律—人間尊重をめぐす	6	性差の予防(エイズ) エイズのしくみ・感染経路・予防法・感染方法	4	性教育講演会(生徒・保護者) 「性に関する意識、知識、行動」アンケート調査(中3～高3)
	3 遺伝(性別と遺伝、遺伝子と染色体)								
高1	生殖(無性生殖と有性生殖、減数分裂、生殖細胞の形成と受精)	18							性教育講演会にて 「本校の性教育」講演会 授業参観
	発生(発生の過程、発生のおくみ「ウニ・カエル」)								
	ニワトリ・ヒト、ウニとカエルの発生観察(実験)								
高2	遺伝(性別と遺伝)	14							
	遺伝子と染色体								
高3	性ホルモンと性常性	2	[現代社会] 家族・性役割・性差別 エイズと人権 女性と労働	16	家族と人間関係 「家族」とは何か 現代家族の形態 結婚・事業・離婚 性役割と家族 高齢化社会と女性 ノーマライゼーション 子どもの発達と家庭・社会 子どもの人権保障	10	男女の二次性徴とホルモンの分泌 女性のからだ(生殖器・月経・生理用品・月経前・月経後の諸症状・おりのもの・基礎体温) 男性のからだ(生殖器・射精のしくみ・精液) 男女の性心理(思春期の性心理傾向) 結婚(結婚観)・人間の性交(動物の交尾との違い) 受精・妊娠(受精・着床・出産予定日) 妊娠中の健康(子宮外妊娠・流産・早産・胎位・多胎・妊娠中毒症・喫煙・飲酒・薬物) 出産(分娩の経過) 人工妊娠中絶(条件・法律・心身に起こりうる害) 交配調節とその方法(避妊) 性の清潔・性病・性行為感染症(STD) 性・後天性免疫不全症候群(エイズ)	3	公開授業
高3	青年期の心身・ジェンダーと性的傾向	3							卒業記念講演会(卒業生)
	性と人権								
	性差別の解消・夫婦別姓問題 経済と女性 男女雇用均等法・育児休業法								

保健体育教科における性教育実践例

保健体育科における性教育授業（指導）例

保健体育科の授業では、性の 物理的・科学的・生理的な面と、男女の性心理，結婚，人間の性交，人工妊娠中絶の学習単元では、心理的な面にも触れる。

一連の授業を行う際、下記のことを根底に置き、教科指導目標とする。

○生徒に、自分の体を知ることの大切さを認識させる。

文字どおり、「自分の体」は 死ぬまでの付き合いとなるもの。

○自分が存在していることの偉大さ，幸運さを認識し、自分の生命の大切さを実感させる。

自分の生命の大切さを知った人は、同じ生命を持った 他の人への思いやりの心も生まれることと思う。

○性に関する生き方において、世間に氾濫している無責任な“ 売るための性情報 ”ではなく、正しい基礎知識を学習させ、その基礎に立っての主体的な選択ができる“力”を身につけさせる。

“ どの生き方が良い ”というのではなく、“ どのように生きるか ”が 大切と考える。

中学・高校6 かな年：性に関する学習（指導）内容例

〔 中 学 〕 ○ 二次性徴と 体の発達	・ 性徴，一次性徴，二次性徴，二次性徴と性（生殖）機能の発達，第二性徴 — 男女の発現時期と個人差
○ 男性の体	・ 内外性器の名称と各働き，射精の仕組み（精通），受精
○ 女性の体	・ 内外性器の名称と各働き，月経の仕組み（初経），排卵，生理用品（外装式・内装式），月経痛（生理痛），おりもの
○ 性感染症 エイズ	・ 病気の仕組み，感染媒介，感染経路，予防法，検査方法，病名の由来
〔 高 校 〕 ○ 男女の二次性徴と 性ホルモン	・ 二次性徴 — 男女の各特徴と発現の時期，二次性徴と性ホルモンの分泌，二次性徴 — 男女の発現時期と個人差
○ 男性の体と 性機能の成熟	・ 内外性器の名称と各働き，性（生殖）機能の成熟と精子細胞の生産，精巣の位置と精子，射精の仕組み（精通）
○ 女性の体と 性機能の成熟	・ 内外性器の名称と各働き，性機能の成熟と卵子細胞，排卵と月経の仕組み，月経と性周期，月経痛，月経前緊張症，生理用品（外装式・内装式），おりもの，基礎体温

- 男女の性心理 ・ 性心理と性行動，男女の性心理，思春期の性心理傾向
- 結婚（婚姻） ・ 結婚の意義と条件，結婚観と人生観，結婚前の健康診断
- 性交 ・ 人間の性交とは（生殖・愛情・快楽），人間の性交と動物の交尾との違い
- 妊娠 ・ 妊娠とは（着床），人の染色体と性別の決定（受精～着床），出産予定日の算出方法，妊娠の経過と胎児の成長
- 妊娠中の健康 ・ 子宮外妊娠，流産，早産，胎位，多胎（一卵性・二卵性），妊娠中毒症，喫煙，飲酒，薬物
- 出産（分娩） ・ 出産の経過（初産婦・経産婦），自然分娩，帝王切開
- 人工妊娠中絶 ・ 人工妊娠中絶とは，人工妊娠中絶の条件（母体保護法），心身に起こり得る害，まとめ
- 受胎調節（避妊） ・ 受胎調節とは，主な受胎調節とその方法（物理的方法・化学的方法・基礎体温法）
- 性の病気 ・ 性行為感染症（STD），エイズ（AIDS：後天性免疫不全症候群），性行為をもたなくても罹る性器の病気

おわりに〔性教育実践における留意点〕

以上 学校教育の中での 教科授業と行事における実践例を示してみた。

最後に、学校教育の中で性教育を実践する際の留意点と思う事柄を述べて むすびとしたい。

- 他の教科との連携を持ち、各教科の領域と指導目標に沿った性教育（内容）を心掛ける。
- 「性に関する授業」が、生き方を選択する際の基礎知識（判断知識）にできるよう、常に授業内容や指導方法の研究を重ねていく。
- 心身の発達や、二次性徴の発現には、個人差があることを理解させ、発達段階や発現の時期 又、性周期等に過度の不安を持たせないよう配慮をする。
- 「性に関する授業」では、性器や性機能及び、性行動の内容にも触れざるを得ないので、（例えば、公開授業や保護者会を通して）保護者の 理解や協力も得られるように心掛ける。

出前性教育講座報告

テーマ 「エイズから学ぶ人間の性」

日 時 平成 12 年 12 月 14 日

出前先 埼玉県立川本高等学校 生徒数 530 名

◎事前に生徒に、質問してから講演を行った。

①エイズから何を連想しますか。

怖い、死ぬと答えた生徒が一番多かった。

その主な理由は、

- ・治療法や治す薬がない
- ・治療しても治らない、免疫が無くなる、長くても 10 年くらいしか生きられない
- ・治療法が見つかってない
- ・治らなそうな病気だから
- ・なんか怖い、エイズはうつるから嫌だ、いつか死にそう

②エイズは身近な病気だと思いますか

- ・思うが 80% 思わないは、20%であった。

③もし友人、家族が感染したらどうしますか

- ・助けてあげたい
- ・その時になってみないと分からない。
- ・友人だったら、離れる、でも分からない
- ・助け合いたい
- ・かわいそう、でも、差別はしない
- ・助けたいけれど、うつりそうだから怖い

など、生徒のエイズに対する意識を把握してから講演を行った。

★講演内容

はじめに、難聴の生徒が一人いるとのことなので、挨拶とテーマについて簡単な説明を手話で行った。

1 事前アンケートの意識に死ぬから怖いと答えた生徒が多かったことを踏まえて

①エイズは怖い！（ケアできるかも）

新薬も出来つつあり、さまざまな薬のおかげで、延命ができる。しかし、見も知らない人とは性交しないこと、セイファーセックス、ステディセックス、に心掛ける。また、予防すれば 100 %うつらないし、大丈夫である。

東京都高性研会長 小泉 功

(都立小金井北高等学校長)

保健などの授業で教えてもらっていることであり、これからきちんと教わることでしょう。

② もうエイズはなくなった？（本当かい）

サハラ以南のアフリカ地域の HIV 感染者は地球全体の 70 %を占めている。その主要感染経路は、異性間のセックスである。女性感染者が男性感染者を 200 万人上回っている。

女性 1200 万人、男性 1000 万人である。未感染者の女性が毎年、10 人に一人が感染する、と言われている。

日本でも、確実に増え続けている。特に、10 歳代後半から 20 歳代の女性が感染しているのは、問題である。

③ 平気？（どうして）

性交しても、予防なしに、「私はうつらない、」相手が感染していないから安心と言う。エイズは、こんな無防備で無知に対しては喜んで寄ってくるし、感染するリスクは高い。

④ うつる？（どのように）

男性なしにはウイルスが広がりがない。世界中の 70 %以上の HIV 感染症は男女間のセックスによって起こり、ついで、男性同士のセックスを通じて 10 %がおこり、また、5 %前後が薬物注射をする人々（その 4 / 5 人は男性）である。

HIV による死亡者は、サハラ以南のアフリカ地域を例外として、世界のあらゆる国で男性が女性を上回っている。ことに若い男性は年長者より大きいリスクにさらされており、

HIV 感染者のうち 4 人に 1 人は 25 歳以下の若者である。

⑤ 共生？（本当にできる）

「差別はいけない」「共生しましょう」と具体的なイメージのないもの、また、小学校の教科書に「エイズの人と仲良くしましょう」と、ありますが、障害のある人への思いやりは、どうしている。かりに、今、自分たちの

教室にインフルエンザに罹っている人がいたらどうしている。罹った人は、欠席するか、大きなマスクをしてうつさないうにして、回りに伝えるし、回りの人もそれなりに分かっている。しかし、エイズに感染している人が教室で「私はエイズに感染している」と言えるかい。また、言えるような雰囲気は回りの人にあるかい。言われたら、「共生」と言って、仲良くできるかい。仲良くしてもらうために、名乗らなければならないような言葉「共生」である。何を言いたいかというと、性感染症という病気が問題であり、感染者が差別と偏見の被害者であってはならない。

性感染症の予防は自分の責任である。だからこそしっかりと身につけよう。

2 エイズ予防

バスケットのヒーローであったマジック・ジョンソンは、性的征服を「男らしさ」とする性規範にのっとって多くのパートナーと一夜を共にしたことを告白し、懺悔し、愛した妻と子供には感染していなかった事実が公表され、それが、コンドームよりも愛とモラルの神話を強化することになった。

日本では、不特定多数というイメージは「性風俗、売春」である。かつては、アジアセックスツアーの親父とアジアからの労働女性たち、今やギャングロやまんば系コギャルへとパッシングの対象はシフトしているが、やはりモラルと結びついて、「相手を選べ」とメッセージは繰り返される。

「不特定多数のパートナーが危ない、相手を選べ」で、あるが、「自分と相手の陰性を確かめてから今後いっさい他のパートナーはもたないと言う約束を实践しあえる相手を選べ」であるから、よほどでないかぎり、不可能だと思われる。しかし、大切な予防の要素であることはまちがいない。また、それを言うなら、予防はコンドームの使用が1番である。

◎予防行動

①ウイルスは人を選ばない。

②性感染症は呼吸器感染と同じ、感染症は生きていれば罹ることがある。

③性関係を持つようになったら予防行動を習慣化する。

④予防行動は、人間だけができる知恵である。

⑤予防行動は、訓練しなければ身に付かない。

①予防行動は100%確実ではあり得ない。(疾病をかかえうるし、支え合いが不可欠)

⑦人間は「失敗」も学習のチャンスにできる。(だから排除ではなく支援が必要)

⑧コンドームを身近におこう、携帯しよう。

3 人間の性

世界のあらゆる場所で、女性は、「セックスを、いつ、どこで、そしてするかしないか」を決定する力をもたないことで、HIV感染の危険にさらされている。

だからこそ「男が変わればエイズが予防される」である。

男性は、「男らしさ」についての社会通念や期待のために、危険なセックス、飲酒、薬物摂取などの行為の後押しをしている現状がある。これが、彼らのパートナーである女性をより高い危険にさらしている。

男性が、セックス、薬物使用やエイズについてお互いに、また、自分のパートナーと話し合うことがこれから重要である。

女性がセックスを、いつ、どこで、するかしないかを決定する力量を高める。

女性から男性の要求に「ノー」と言え、女性が気軽にコンドームを買い、パートナーに、付けてと言えること。

男性は、暴力に頼って、女性を虐待することのないように心がけてもらいたいと思う。

「ドメスティックバイオレンス」として、最近、パートナーからの女性への暴力が相当数報告されている。女性に優しく、共に、人生を味わうパートナーである。

男性の行動は女性をHIVの感染の危険にさらしている。ことを考えてほしいものである。

(手話) 以上で話を終わります。

東京都高等学校性教育研究会会則

第一章 総 則

第1条 本会は、東京都高等学校性教育研究会と称する。（略称 都高性研）

第2条 本会は、高等学校における性に関する指導を重視し、その必要性を認識する者により組織され、次の事項を目的とする。

1. 学校教育における性教育の在り方、進め方に関する実践的研究を行う。
2. 性教育を通して、生徒の健全育成に関する研究を行う。
3. 人間の性に関する研究を行う。

第3条 本会は、第2条の目的達成のために、次の事業を行う。

1. 研究協議会・講演会・公開授業などの開催。
2. 調査研究、情報の収集。
3. 各種機関・団体との連絡・提携。
4. 研究集録などの発行
5. その他、本会の発展に必要な事業。

第二章 組 織

第4条 会員は、都内の高等学校教員および第2条の目的に賛同する者をもって組織する。

第5条 本会は、次の役員を置く。

- ・会長 （1名） ・副会長 （若干名）
- ・常任理事 （若干名）
- ・理事 （若干名） ・会計 （2名）
- ・会計監査 （2名）

第6条 役員の選出は、総会において行う。

第7条 役員の任務は、次のように定める。

1. 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
2. 副会長は、会長を補佐する。
3. 常任理事・理事は、会務を処理する。
4. 分掌は、事務・会計・研究・調査

・広報の5部門を置く。

5. 会計は、経理を担当する。

6. 会計監査は、本会会計について監査する。

第8条 役員の任期は、2年とする。但し、再任は妨げない。

第9条 本会には、顧問を置くことができる。

第三章 会 議

第10条 本会の会議は、総会・定例会・理事会および各部会とする。

第11条 総会は、会長がこれを招集し開催する。

第12条 総会は、毎年1回開く。但し、必要がある場合は臨時に開くことができる。

第13条 総会に付議する事項は次の通りである。

1. 事業計画の決定
2. 予算および決算の承認
3. 役員選出および承認
4. 会則の変更
5. その他の重要事項

第四章 会 計

第14条 本会の経費は、会費およびその他の収入をもってこれに充てる。

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

第16条 本会の会費は、学校単位として、年額次の通りとする。

- ・全日制 2,800円
- ・定時制 1,400円

第五章 付 則

第17条 本会の事務局は、事務局長の現任校に置く。

第18条 会則は、平成元年 4月1日 一部改正。

この会則は、平成10年5月29日施行する。

〔平成12年度役員〕

会 長	小泉 功	小金井北高校学校長
副会長	筒井邦夫	代々木高校学校長
"	竹内 章	久留米西高校教諭
"	正角良子	武蔵丘高校教諭
研究部長	土崎祐一郎	蒲田高校教諭
副 "	川端利明	城北高校教諭
調査部長	柳瀬さち子	西高校教諭
副 "	井口一成	江戸川高校教諭
広報部長	榎 茂喜	府中東高校教諭
副 "	相川 玲	向島商業高校教諭
事務局長	川端洋介	国際高校教諭
副 "	井谷 亨	武蔵高校教諭
会 計	林 美智子	東高校教諭
"	山元和三	第三商業高校教諭
会計監査	高梨 昭	小石川高校教諭
"	黒沢順子	深川高校定教諭
常任理事	田原正之	両国高校教諭
"	林 正	関東第一高校教諭
"	柳下ひとみ	大泉学園高校教諭
理 事	柴崎英樹	篠崎高校教諭
"	尾崎武彦	向丘高校定教諭
"	青田雅樹	向丘高校教諭

1 野津田	2 府中東	3 羽村
4 大泉北	5 館	6 日野台
7 江東商	8 篠崎	9 牛込商
10 府中西	11 練馬	12 蒲田
13 山崎	14 市ヶ谷商	15 大森東
16 小金井北	17 日本橋	18 久留米
19 城東	20 田園調布	21 本所
22 隅田川	23 水元	24 豊多摩
25 南野	26 葛飾野	27 東村山西
28 久留米西	29 北園	30 永福
31 高島	32 調布北	33 桜水商
34 秋留台	35 竹ノ台	36 広尾
37 井草	38 淵江	39 田柄
40 忠生	41 国分寺	42 光丘
43 国際	44 深沢	45 南
46 新島	47 大泉学園	48 東大和南
49 足立	50 小川	51 成瀬
52 拝島	53 千歳ヶ丘	54 武蔵丘
55 白鷗	56 八王子高陵	57 狛江
58 日野	59 保谷	60 武蔵村山
61 西	62 南平	

(都立高校定時制 3校)

1 代々木	2 五日市	3 八潮
-------	-------	------

(私立高校 30校)

1 二松学舎大学付	2 駒込学園
3 十文字学園	4 早稲田実業
5 山崎学園	6 宝仙学園
7 八王子実践	8 淑徳学園
9 立正	10 桐朋
11 国士館 (全・定)	12 東京女学館
13 八王子	14 普連土学園
15 桜美林学園	16 学習院
17 多摩川聖学院	18 東京文化学園
19 成城	20 共栄学園
21 東京純心女子	22 順心女子学園
23 淑徳巣鴨中高	24 多摩川大学目黒
25 東京学園	26 豊島学院
27 昭和鉄道	28 渡辺学園
29 成城学園	30 東京電気大学

〔平成12年度会員校〕

(都立高校全日・定時制 32校)

1 荒川商	2 江戸川	3 第一商
4 第四商	5 小石川	6 石神井
7 四谷商	8 葛西南	9 第三商
10 一橋	11 荻窪	12 東
13 雪谷	14 上野	15 深川
16 中野工	17 都立大付	18 第五商
19 両国	20 小岩	21 北野
22 桜町	23 向島商	24 大泉
25 葛飾商	26 羽田	27 小松川
28 文京	29 小金井工	30 町田
31 日比谷	32 城北	

(都立高校全日制 62校)

あ と が き

研究協議に参加して

平成12年6月、都立深川高校で「薬物乱用について」高性研の研究会が行われ、原田幸男教諭の授業を見学する機会を得ることができた。原田先生は、日本で数少ないHIV/AIDS、薬物乱用・飲酒・喫煙等の実践的な研究者の一人であり、性教育にも長年にわたりかかわってこられた。

「現在のグローバルな健康問題は、地球環境の破壊、HIV/AIDS、薬物乱用ではないだろうか。そして、これらの問題は一つの地域や国家だけの問題ではない。課題解決には、国連や世界保健機関、各国政府、NGOなどあらゆる組織や機関が連携して戦略を立て、強力に推進していかなければならない。」このように、健康問題一つとっても今や何事も一つの地域や国家では解決が困難になってきている。

これからの健康教育に必要な因子として、動機付けにかかわる要因（知識・態度・信念・価値観）、実際の行動へと結びつけていくことを促す要因（セルフエスティーム維持・コミュニケーション・意志決定・ストレスマネジメントスキルなどのライフスキル）、行動の継続にかかわる要因（友人の行動や態度・家族の行動や態度・教師の行動や態度）が上げられ、これらの要因の全ての影響を受けており、単に薬物等の使用と健康の関係についての情報を提供するだけでは、行動面への効果は期待できない。

喫煙・飲酒・薬物乱用には、共通の特性として薬物の依存性があり、これらの使用行動が習慣化され、中断することが困難となるなどの性質がある。彼らが、喫煙・飲酒・薬物乱用防止の意義と重要性を認識し、これらによってもたらされる健康影響やさまざまな問題について理解し、意志決定能力を育成し、たとえ誘惑されるような機

東京都高等学校性教育研究会副会長

筒井 邦夫

会があったとしても上手に断るスキルや態度を身につける必要がある。

アメリカのCDCでは、青少年の危険行動として次の六つを上げている。

- ①故意又は不慮の事故に関する行動。
- ②喫煙
- ③飲酒及び薬物乱用。
- ④望まない妊娠、HIVを含むSTDに係る行動。
- ⑤不健全な食生活。
- ⑥運動不足

これら六つの危険行動は、相互に関連性が強いこと、青少年期に確立され、大人になるにつれて固定化し、進行するとしている。

研究協議・配付資料等からの抜粋です。健康教育に必要な三つの要因、六つの青少年の危険行動について「そのとおり」と納得しました。

性教育にも共通点がたくさんあると思います。性教育といっても、様々な捉え方、見方、考え方があり、一つに固執しては教育現場での性教育は不可能です。様々な分野の専門家との共同が課題だと思います。今、学校という教育現場で性教育を考えると、大きく健康問題・人権問題の一つとして捉え、様々な角度からアプローチすることが重要だと考えます。

「あふるる」第3号の発刊にあたり、高性研の皆様の熱心な研究協議、性教育関係の研究大会情報等内容の充実に努めました。が、まだまだ改善すべき点があると思います。ご意見ご感想等ありましたら、下記へご連絡下さい。心からお待ち申し上げます。

東京都高等学校性教育研究会 事務局長

都立武蔵高等学校 教諭 井谷 享

TEL 042-251-4554 FAX 042-251-3966

あひる

第 3 号

発 行 平 成 13 年 5 月
発行者 都高等学校性教育研究会
印 刷 (有)梶山印刷 3944-2941

